
令和6年 第4回（定例）日出町議会会議録（第2日）

令和6年12月5日（木曜日）

議事日程（第2号）

令和6年12月5日 午前10時00分開議

開議の宣告

請願の上程

議案質疑

日程第1 議案第56号 令和6年度日出町一般会計補正予算（第5号）について

日程第2 議案第57号 令和6年度日出町国民健康保険特別会計補正予算（第2号）について

日程第3 議案第58号 令和6年度日出町介護保険特別会計補正予算（第2号）について

日程第4 議案第59号 日出町監査委員条例の一部改正について

日程第5 議案第60号 日出町公共下水道条例の一部改正について

日程第6 議案第61号 日出町漁業集落排水処理施設の設置及び管理に関する条例の一部改正について

日程第7 議案第62号 日出町農業集落排水施設の設置及び管理に関する条例の一部改正について

日程第8 議案第63号 職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部改正について

日程第9 議案第64号 日出町まちづくり基金条例の一部改正について

日程第10 議案第65号 日出町放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正について

日程第11 議案第66号 日出町老人介護者手当支給条例の廃止について

日程第12 議案第67号 大分市との事務の委託の廃止に関する協議について

日程第13 議案第68号 別府市との事務の委託の廃止に関する協議について

日程第14 議案第69号 枝築市との事務の委託の廃止に関する協議について

日程第15 議案第70号 由布市との事務の委託の廃止に関する協議について

日程第16 議案第71号 九重町との事務の委託の廃止に関する協議について

日程第17 議案第72号 中津市との事務の委託の廃止に関する協議について

日程第18 議案第73号 宇佐市との事務の委託の廃止に関する協議について

- 日程第19 議案第74号 国東市との事務の委託の廃止に関する協議について
- 日程第20 議案第75号 竹田市との事務の委託の廃止に関する協議について
- 日程第21 議案第76号 佐伯市との事務の委託の廃止に関する協議について
- 日程第22 議案第77号 豊後大野市との事務の委託の廃止に関する協議について
- 日程第23 議案第78号 白杵市との事務の委託の廃止に関する協議について
- 日程第24 議案第79号 津久見市との事務の委託の廃止に関する協議について
- 日程第25 議案第80号 玖珠町との事務の委託の廃止に関する協議について
- 日程第26 議案第81号 豊後高田市との事務の委託の廃止に関する協議について
- 日程第27 議案第82号 日田市との事務の委託の廃止に関する協議について
- 日程第28 議案第83号 町道の廃止について
- 日程第29 議案第84号 町道の認定について
- 日程第30 同意第4号 日出町教育委員会委員の任命について
- 日程第31 同意第5号 日出町固定資産評価審査委員会委員の選任について
議案及び請願の委員会付託
- 日程第32 一般質問
- 散会の宣告
-

本日の会議に付した事件

- 開議の宣告
- 請願の上程
- 議案質疑
- 日程第1 議案第56号 令和6年度日出町一般会計補正予算（第5号）について
- 日程第2 議案第57号 令和6年度日出町国民健康保険特別会計補正予算（第2号）について
- 日程第3 議案第58号 令和6年度日出町介護保険特別会計補正予算（第2号）について
- 日程第4 議案第59号 日出町監査委員条例の一部改正について
- 日程第5 議案第60号 日出町公共下水道条例の一部改正について
- 日程第6 議案第61号 日出町漁業集落排水処理施設の設置及び管理に関する条例の一部改正について
- 日程第7 議案第62号 日出町農業集落排水施設の設置及び管理に関する条例の一部改正について

- 日程第8 議案第63号 職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部改正について
- 日程第9 議案第64号 日出町まちづくり基金条例の一部改正について
- 日程第10 議案第65号 日出町放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正について
- 日程第11 議案第66号 日出町老人介護者手当支給条例の廃止について
- 日程第12 議案第67号 大分市との事務の委託の廃止に関する協議について
- 日程第13 議案第68号 別府市との事務の委託の廃止に関する協議について
- 日程第14 議案第69号 杵築市との事務の委託の廃止に関する協議について
- 日程第15 議案第70号 由布市との事務の委託の廃止に関する協議について
- 日程第16 議案第71号 九重町との事務の委託の廃止に関する協議について
- 日程第17 議案第72号 中津市との事務の委託の廃止に関する協議について
- 日程第18 議案第73号 宇佐市との事務の委託の廃止に関する協議について
- 日程第19 議案第74号 国東市との事務の委託の廃止に関する協議について
- 日程第20 議案第75号 竹田市との事務の委託の廃止に関する協議について
- 日程第21 議案第76号 佐伯市との事務の委託の廃止に関する協議について
- 日程第22 議案第77号 豊後大野市との事務の委託の廃止に関する協議について
- 日程第23 議案第78号 白杵市との事務の委託の廃止に関する協議について
- 日程第24 議案第79号 津久見市との事務の委託の廃止に関する協議について
- 日程第25 議案第80号 玖珠町との事務の委託の廃止に関する協議について
- 日程第26 議案第81号 豊後高田市との事務の委託の廃止に関する協議について
- 日程第27 議案第82号 日田市との事務の委託の廃止に関する協議について
- 日程第28 議案第83号 町道の廃止について
- 日程第29 議案第84号 町道の認定について
- 日程第30 同意第4号 日出町教育委員会委員の任命について
- 日程第31 同意第5号 日出町固定資産評価審査委員会委員の選任について
議案及び請願の委員会付託
- 日程第32 一般質問
- 散会の宣告

出席議員 (15名)

1番	多田 利浩君	2番	阿部 峰子君
3番	河野 美華君	4番	岡山 栄蔵君

5番	豊岡 健太君	7番	衛藤 清隆君
8番	阿部 真二君	9番	上野 満君
10番	川西 求一君	11番	岩尾 幸六君
12番	池田 淳子君	13番	工藤 健次君
14番	森 昭人君	15番	熊谷 健作君
16番	金元 正生君		

欠席議員 (なし)

欠 員 (1名)

事務局出席職員職氏名

局長 山口 佳子君 係長 橋本 樹輝君

説明のため出席した者の職氏名

町長	安部 徹也君	教育長	恒川 英志君
会計管理者兼会計課長	工藤 明美君	総務課長	河野 匡位君
財政課長	河野 明弘君	政策企画課長	古屋秀一郎君
まちづくり推進課長	藤本 周司君	税務課長	佐藤功次郎君
住民生活課長	伊豆田政克君	介護福祉課長	宇都宮 博君
子育て支援課長	満石加寿美君	健康増進課長	後藤 将児君
農林水産課長	河野 一利君	都市建設課長	豊田 博君
上下水道課長	藤井 英明君	教育総務課長兼学校給食センター所長	安田 恵君
学校教育課長	竹内 由佳君	社会教育課長兼町立図書館長	河野 英樹君
代表監査委員	井上 哲治君	監査事務局長	波津久 誠君
農業委員会事務局長	麻生 康弘君	総務課参事兼危機管理室長	赤野 公彦君
総務課課長補佐	吉松 慎史君		

午前10時00分開議

○議長（金元 正生君） 皆さん、おはようございます。

開会に先立ちまして、傍聴される皆様に申し上げます。会議中は静粛に願います。携帯電話、スマートフォンをお持ちの方は電源をお切りになるか、マナーモードに設定されますよう御協力

願います。

開議の宣告

○議長（金元 正生君） ただいまの出席議員は15名です。定足数に達しておりますので、これより本日の会議を開きます。

会議の議事は、お手元に配付しております議事日程により行います。

請願の上程

○議長（金元 正生君） 本日までに受理した請願2件につきましては、お手元に配付しましたとおりであります。

なお、請願につきましては、写しにより説明を省略したいと思います。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（金元 正生君） 異議なしと認めます。したがって、請願については説明を省略することに決定しました。

議案質疑

日程第1. 議案第56号

日程第2. 議案第57号

日程第3. 議案第58号

日程第4. 議案第59号

日程第5. 議案第60号

日程第6. 議案第61号

日程第7. 議案第62号

日程第8. 議案第63号

日程第9. 議案第64号

日程第10. 議案第65号

日程第11. 議案第66号

日程第12. 議案第67号

日程第13. 議案第68号

日程第14. 議案第69号

日程第15. 議案第70号

日程第16. 議案第71号

日程第17. 議案第72号

日程第18. 議案第73号

日程第19. 議案第74号

日程第20. 議案第75号

日程第21. 議案第76号

日程第22. 議案第77号

日程第23. 議案第78号

日程第24. 議案第79号

日程第25. 議案第80号

日程第26. 議案第81号

日程第27. 議案第82号

日程第28. 議案第83号

日程第29. 議案第84号

日程第30. 同意第4号

日程第31. 同意第5号

○議長（金元 正生君）　日程第1、議案第56号令和6年度日出町一般会計補正予算（第5号）

についてから、日程第31、同意第5号日出町固定資産評価審査委員会委員の選任についてまでの議案29件、同意2件を一括上程し、議題とします。

これより議案質疑を行います。

議案質疑に対する通告がありませんでしたので、これで議案質疑を終わります。

議案及び請願の委員会付託

○議長（金元 正生君）　お諮りします。ただいま議題となっております議案29件、同意2件、請願2件をお手元に配付しております付託表のとおり、それぞれの所管の常任委員会に付託したいと思います。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（金元 正生君）　異議なしと認めます。したがって、議案29件、同意2件、請願2件をそれぞれの所管の常任委員会に付託することに決定いたしました。

日程第32. 一般質問

○議長（金元 正生君）　日程第32、一般質問を行います。

なお、12月3日の議会運営委員会におきまして、今定例会の一般質問は今日と明日の2日間で実施することに決定しました。したがいまして、本日は受付番号4番までの阿部真二議員、阿部峰子議員、豊岡議員、多田議員の一般質問を実施し、との3名の方は明日実施いたします。

それでは、順次質問を許します。8番、阿部真二議員。阿部議員。

○議員（8番 阿部 真二君） 8番、阿部真二です。通告書に従って質問したいと思いますので、執行部の前向きな答弁をお願いします。

最初の質問です。不登校児童生徒の実態について伺います。

11月1日の合同新聞で、県内不登校最多の記事が報じられました。記事では県内の不登校の児童生徒は3,859人となり、前年度574人上回り、過去最多を更新したとのことです。また、ネットいじめの中見出しも目を引きました。そこで、町内の現在の状況、その原因、分析、内容、その対策について伺います。まず直近3年間の学年別の不登校者数の推移を教えてください。

○議長（金元 正生君） 竹内由佳学校教育課長。

○学校教育課長（竹内 由佳君） お答えします。

不登校の状況にある児童生徒数につきましては、日出町単独での公表は行っておりませんので、具体的な人数や学年別の状況等については答弁を控えさせていただきたいと思います。

出現率につきましては、大分県の数値を小学校、中学校ともに下回っております。

人数の推移につきましては、議員の御指摘のとおり、全国や大分県では不登校の児童生徒数は年々増加傾向にございます。日出町では令和3年度から令和4年度は増加、令和4年度から令和5年度は不登校の児童生徒数は減少しています。

以上でございます。

○議長（金元 正生君） 阿部議員。

○議員（8番 阿部 真二君） ちょっと前にも質問したときに、数字は出せないということだったんですけども、今、一応、出現率は小中とも県より下回るということで、日出町としてはいい方向というか、と今、報告があったように、令和4年から5年は減少傾向になるということで、非常にいい状況になっているというふうに感じておりますが、不登校者がいないわけではないということで、直近の不登校者数はお答えできないということですけども、不登校に至った原因は何なのか。例えば友人関係なのか、いじめの問題なのか、家庭環境なのか、学校としてしっかり原因分析はされているんじゃないかとは思いますので、その分析結果を教えてください。

○議長（金元 正生君） 竹内課長。

○学校教育課長（竹内 由佳君） 不登校の原因や要因ですけれども、これは複合的かつ多岐にわたりまして、特定が非常に難しいケースがほとんどです。各学校では児童生徒や保護者に接する

中で、要因と考えられることや不安な様子がありましたらその内容を把握し、解消につなげる働きをするようにしています。

いじめを理由とした不登校については、報告を受けることになっておりますけれども、日出町では現在、いじめを理由にした不登校の児童生徒の報告はございません。

不登校児童生徒についての相談事例といたしましては、学校生活に対してやる気が出ないなどの相談があったというケースが最も多くなっています。

以上でございます。

○議長（金元 正生君） 阿部議員。

○議員（8番 阿部 真二君） 複合、多岐にわたるということで、なかなか原因特定が難しいということは分かりますが、今あったように、やる気が出ないっていう児童生徒がいるということで、そのやる気が出ない原因というか、なぜそういう、やる気が出ない子が出てくるのか。その辺は分析したようなことはありますか。

○議長（金元 正生君） 竹内課長。

○学校教育課長（竹内 由佳君） お答えします。

やる気が出ないという子供たちの背景も様々ありますて、例えば学習面で十分な、思うような結果出られず難しいというようなことを抱えているお子さんや、生活リズムが整わない、または議員からございましたが、人間関係、友達関係等で悩みながら学校に行くことがだんだんと気持ちが向かないとか、そういう報告は受けてございます。一つ一つについて、子供たちの居心地のよい学校を作るということが何よりも第一だと思いますし、それからやりがいのあるような活動を仕組んでいくと、そういうことも必要かと思います。

また、保護者の方の御協力も必要な面もございますので、一つ一つ取り組んでいるところでございます。

以上です。

○議長（金元 正生君） 阿部議員。

○議員（8番 阿部 真二君） 学習面や生活リズム、人間関係等々があるということですけども、今、課長おっしゃったように、居心地がよい環境を作るということで、最近というか、皆さん御存じのとおり、玖珠町ですね、学びの多様化学校ということで、イエナプラン的な、イエナプランというのは子供の自発性を考慮し、自主性やコミュニケーション能力が育つような教育方法、方針なんですが、それに近い教育方法を取り入れて自主的な学びを推進し、8か月間やってきて、その実績を経てくす若草小中学校ということで名称変更してきたと。今、日本中からそういう不登校の子供さんを受け入れて注目されていることで、ここも生徒のいろんな質問等々で居心地がよいとか、いろんな生徒の感想もホームページ上では掲載されていますが、やっぱりそういう

う居心地がよい環境、そこから不登校だった子がすごく元気になっていると。教員もあだ名で呼んで、非常に生徒と教員の距離が縮んでいるというような報告というか、紹介もされています。なので、今、学校では何々さんですよね。子供を呼ぶときは全てさんづけだと思いますけれども、以前はあだ名があつたり、ちゃんづけがいいのか、君づけがいいのかよく分からぬとありますけれども、今、その多様性、ジェンダーレスを受け入れるということで、そういう呼び方もいろいろやりにくい世の中にはなってますけれども、何が居心地が、子供にとって居心地がよいのかというようなところをしっかり検証、研究して、一人でもそういう不登校の子供が出ないように、また不登校の子が出ないようにしてほしいと思います。

実際、先ほど令和4年から5年は減少傾向にあるということで、ということは、不登校だったけども復帰された子供さん、児童生徒がいるっていうことだと思うんですが、それは何か原因というか、なぜ不登校から復帰できたのか、その辺は何か調査されてますか。

○議長（金元 正生君） 竹内課長。

○学校教育課長（竹内 由佳君） お答えいたします。

不登校の児童生徒が減少した理由はということでございますけれども、減少の理由というのを特定することは難しいですが、昨年、またはちょっと前までは行けていなかつたけれども、今、学校に行けていると子供が出てきているということは事実でございます。

日出町として、学校全体が学級風土、学校風土という雰囲気を改めて見直すというような中で、様々な取組を通しまして、子供たちにとって安心して過ごせる学校づくりと児童生徒の居場所づくりということを地道に進めてきた成果が現れてきているのではないかというふうに考えております。

例えば、学校全体が児童生徒にとって安心できる居心地のいい場所であるような学級風土の醸成としましては、各学校での仲間づくりの取組を進めております。その一つとして、全ての学校で週1回以上の人間関係づくりプログラムという短時間の活動を行っておりまして、このプログラムというのは、短い時間でのテーマを決めた交流活動等を進めながら、その振り返りを通して自尊感情や人との関わりの力、相手を大切にする力、集団生活への安心感等を育てる活動でございます。日出町では特に丁寧な取組を進めているところです。

また、教育支援センターフレンドリー広場には、授業の合間を縫いまして、学校から担任が子供を訪ねてくるなど、学校と関係機関の連携も大切にしているところです。全体数としては減少傾向ですが、議員がおっしゃられたように、今も登校したくてもできずに苦しんでいる子供たちやその保護者さんたちがおられます。引き続き子供を中心に取り組んでまいりたいと考えています。

以上です。

○議長（金元 正生君） 阿部議員。

○議員（8番 阿部 真二君） 居場所づくりだとか人間関係づくりプログラムというような、特色なのかよく分かりませんけど、特色のある活動されて減少傾向になっているということなので、ぜひその辺、さらにプラスチックアップして、もう本当一人でも復帰できるように、不登校者が出ないように取り組んでいただきたいというふうに思います。

それと、先ほど玖珠のくす若草小中学校の話をちょっとしましたけども、今言われてた人間関係づくりとか居場所づくりとかいったところは、イエナプランにも少し類似するような内容の活動だと思いますので、前もイエナプランについては導入しませんかという話をしましたけども、そのときは導入する予定はないという回答でしたけども、それに近い活動がだんだんされてきてるので、その辺ももう一度再考いただければというふうに思います。

それと、以前、南端小中学校ですね、あそこで玖珠でやっているような不登校生徒児童を受け入れてしばらくやってたと思いますけども、必要に応じて、日出町の場合は減少傾向にあるということですけども、県内では増えているので、そういうところも再度可能性があるのであれば、あそこはあのまま置いててもしょうがないので、せっかくある施設なんで、それを有効活用するといったところで、玖珠の例を学んで、できるのであれば町内でそういうことをやれば町外からの児童生徒もやってくると。全然教育と関係ないんですけど、人口増にもつながる政策の一つではないかと思いますので、その辺も再考する余地があれば再考していただきたいというふうに思います。

それでは1つ目の質問は終わります。

2つ目です。年収の壁見直しによる影響についてです。

これも11月20日の合同新聞で、県全体で255億円減収の記事が報じられました。いわゆる103万円の壁と世間を賑わせている件ですが、日出町への影響について伺いたいと思います。

日出町の減収金額はということで、1つ目の質問を入れてたんですけども、これについては103万円が178万円に引き上げられた場合、県の試算方法で算出すると、約3億6千万円の減収になるということで、熊谷先輩が直接税務課に確認されて、議員全員に共有されている内容なので、これについては割愛して、その3億6千万円が仮に減った場合の町の事業への影響はどういう影響が出るのか、教えてください。

○議長（金元 正生君） 河野明弘財政課長。

○財政課長（河野 明弘君） 御質問にお答えいたします。

年収の壁の見直しによる事業への影響ということでございますが、税収の減に伴います事業の影響については、当然ながら財源が不足することとなるため、歳入面から見れば別の財源を確保することが必要となりますし、財源を確保できないということになれば、歳出を見直していくこ

とにつながることが見込まれます。

以上です。

○議長（金元 正生君） 阿部議員。

○議員（8番 阿部 真二君） すごく簡単に説明されましたけど、そのとおりだとは思います。

例えば別の財源確保、これ3番目の質問で入れてたんですけども、先に聞きたいと思います。その別の財源を確保する策として何か検討されていますか。

○議長（金元 正生君） 河野課長。

○財政課長（河野 明弘君） 減収分を補う策はという御質問でございます。

税務課の試算では3億6千万円の減収が見込まれております。減収分の約75%に当たる2億7千万円については、国からの普通交付税で措置されますが、残りの25%に当たる約9千万円については国からの補填が今後ない場合は、独自の財源の確保が必要となります。

本来であれば、自治体の減収分は国が責任を持って恒久的な財源を確保すべきであるというふうに考えますが、仮に自治体独自に財源を確保しなければならないとなった場合については、現時点では減収分を確実に確保できる財源はございませんので、例えばふるさと寄附金のさらなる增收、あるいは収納率向上による税収の確保、町有財産の売却や貸付等での対応が想定されます。

以上です。

○議長（金元 正生君） 阿部議員。

○議員（8番 阿部 真二君） 実質普通交付税で75%が補填されるであろうということですが、実際のところ3億6千万円の影響が出るかどうかはつきりは分からないので、令和7年からかなということで今、国では調整しているみたいでそれとも、実際のところはどこで落ち着くかはつきりしないのであれでそれとも、今分かっている範囲でいくと、9千万円は少なからず不足すると。その分はふるさと寄附金や町有地の売却等々で補えるものがあれば補おうということのようですが、実際、町有地の売却も以前から何度もこの場で訴えてきてますけれども、実際はなかなか手つかずで売却もできないというのが現状じゃないかと思いますが、その売却できるような場所、土地が日出町にどれくらいあるでしょうか。

○議長（金元 正生君） 河野課長。

○財政課長（河野 明弘君） 町有地の財産の売却や貸付という御質問であります。

売却については、売ってしまえばそのときだけの収入になりますので、本来であれば恒久的な財源ではありませんので、本当に一時的な財源でありますので、本来、それは当てにすべきではないというふうに考えております。

町有地の財産の売却についてですけれども、土地、建物それあります。土地については、まだ全体的な現況を把握できておりませんので、今この時点でのくらいいの広さということは申

し上げられませんが、一応、今年度につきましても少しづつ内容を確認しながら宅地の売却を進めていきたいというふうには考えております。

以上です。

○議長（金元 正生君） 阿部議員。

○議員（8番 阿部 真二君） それで、売却やら貸付ができればいいんですが、実際もう減収見込みにはなるはずなんで、今から貸付ができる体制、売却できる体制、それを公募なのか、何かそういう策を打っておかないと、すぐ売りたいからすぐ売れるというもんでもないと思うので、その辺はあらかじめ減収はもう見えているわけなんでやっておくべきではないかと思うんですけども、どういうタイミングでそういうことをやりますか。

○議長（金元 正生君） 河野課長。

○財政課長（河野 明弘君） 本来であれば、減収分は全額国が補填するようにというのが地方自治体の希望であります。御存じのとおり、今、全国知事会とか、あと町長も加盟してます全国町村会では国に恒久的な財源を求めておりますので、まずはその推移を見守りたいと思っておりますし、万が一そういった形で財源が確保できないということであれば、今、議員御指摘のとおり、早めの対応に取り組んでまいりたいと思います。

以上です。

○議長（金元 正生君） 阿部議員。

○議員（8番 阿部 真二君） 早めの対応、仮に減収がなくても、そういう町民が望んでいる、企業が望んでいるような売却で、または貸付できるような建物や土地があるんであれば、その分は収入になるわけなんで、減収がなくてもその分は増える、収入として財調に積めるわけなんで、それは国の動向を見るまでもなく進めるべきじゃないかと思うので、やれることはどんどんやって、減ったからやるんじゃなくて、減らなくても収入源としての対策、政策はやるべきだと思うので、前向きに検討いただきたいと思います。

先ほど最悪、そういうものがない場合、歳出の見直しという話もあったんですが、今、年々、当初予算も膨らむ傾向にあるかと思います。特に町長の公約に掲げている内容は、お金がかかることがほとんどなんで、そういう支事が増えていくのは目に見えてるんですよね。なので、歳出の見直しをしたときに優先順とか絶対出てくると思うんですけども、どういった部分を削っていくんでしょうか。

○議長（金元 正生君） 河野課長。

○財政課長（河野 明弘君） 減収分への影響ということでございますが、町税につきましては一般財源であります。特定財源ではございませんので、この事業が特別にこの事業が影響するということは現時点ではありませんが、一般財源につきましては広く多くの事業に充当されております

ので、現時点でこの事業がとか、この経費が影響するということは断定はできませんけれども、幅広く見直していくことは必要になるかと思います。

以上です。

○議長（金元 正生君） 阿部議員。

○議員（8番 阿部 真二君） 簡単に言うと、財調を切り崩して、そこで補填していくということだと思うんですけど、先ほどふるさと寄附金等も補填するための策という答弁ありましたけれども、ふるさと寄附金を今のところ伺う範囲では前年度比1億2千万円ほどのビハイドということで、最終的には5千万円程度前年比ビハイドするんじゃないかという見込みのようですがれども、推進室を作つて力入れてますよね。ただもう既に室長は何か違うところに行かされたみたいですが、その辺を含めて一貫したしっかり政策を貫けるような体制でないと、コロコロ変わつたらそれもうまくいかないんじゃないかというふうに思いますので、そういう何というか突拍子もない人事というか、たつた2か月でほかの部署に異動させるとかいうことはいかがなものかというふうに感じていますけれども、町長、その辺はどうなんですか。

○議長（金元 正生君） 町長、安部徹也君。

○町長（安部 徹也君） 御質問にお答えいたします。

人事につきましては、これにつきましては私が異動させたということではなくて、希望が出ましたので、そういう希望に基づいて体制を変えたということになっております。

以上でございます。

○議長（金元 正生君） 阿部議員。

○議員（8番 阿部 真二君） 本人の希望ということですか。町長との確執というわけではなくて。本人の希望ということであれば、それは致し方ないかと思いますので、しっかりふるさと寄附金の推進室、ふるさと納税推進室の活動も見守っていきたいというふうに思います。

では、最後の質問に移ります。

災害への備えと発災時の対応、体制について伺います。

先日、福祉文教常任委員会の行政視察研修で、宮城県岩沼市、亘理町を訪問し、学んだ内容について日出町の備え、被災者サポート体制について伺いたいと思います。

1つ目、備蓄物資の備蓄量とその算出根拠を教えてください。

○議長（金元 正生君） 赤野公彦危機管理室長。

○総務課参事兼危機管理室長（赤野 公彦君） まず、日出町における備蓄量とその根拠はということになりますので、まず備蓄の根拠について御説明させていただきます。

大分県が定めました災害時備蓄物資等に関する基本方針を根拠にしております。この中で、大分県全域で最大避難者数を18万人と想定しており、日出町として4,950人分の備蓄を行う

こととなります。その人数の3日分の必要量のうち1日分を県と市町村で備蓄し、1日分を流通物資で備蓄します。残りの1日分を自助・共助等で対応するということを基本にしております。

次に、現在、日出町の備蓄量であります。主なもとにして、アルファ化米が約1万500食、缶詰等の副食が約3,800食、飲料水の500ミリペットボトルで1万3千本、毛布が1,700枚、携帯トイレが4,600個であります。そのほかにも粉ミルク、子供用、大人用おむつ、生理用品、防災資機材、段ボールベッド等も備蓄しております。

以上であります。

○議長（金元 正生君） 阿部議員。

○議員（8番 阿部 真二君） 県の方針にしたがってと、則ってということで、日出町では4,950人分ということで、今、答弁ありましたが、毛布は1,700枚ということですけれども4,950人がいっぺんに避難するというわけではないかと思いますけれども、1,700枚ということのはどこから出た数字なんですか。

○議長（金元 正生君） 赤野室長。

○総務課参事兼危機管理室長（赤野 公彦君） お答えします。

今、県の目標数値が1人当たり2枚ということで2,480枚でありますので、日出町につきましてはまだ備蓄の確保途中ということでありますので、この数字を目標にしていたというわけではありません。

以上であります。

○議長（金元 正生君） 阿部議員。

○議員（8番 阿部 真二君） 災害はいつやってくるか分からないので、最低必要数が日出町で想定される人数が4,950であればそれに近い枚数がいるんじゃないかと思うんですけども、今、確保途中ということなんで、いつまでに100%そろえる予定でしょうか。

○議長（金元 正生君） 赤野室長。

○総務課参事兼危機管理室長（赤野 公彦君） お答えいたします。

まず基準となります4,950人の説明をさせていただきますと、これは備蓄を備える目標のめどの数値であります。実際に日出町において、南海トラフにおいて、避難者数を想定してますけれども、そちらにつきましては2,603人であります。備蓄としては県全体で大分県からの方針の中で4,950人分を想定して備えますけれども、対象となる想定数は2,600人でありますので、そこは説明させていただきます。

御質問の、いつまでにそろえるかということでありますけれども、令和8年度中までにはそろえたいと思っております。県の方針の中で不足しているものがいくつかあります。説明させていただきますと、缶詰等の副食がまず足りません。それから毛布ですね、あと携帯トイレが今年度

県が方針を見直しまして拡大しましたので、こちらの携帯トイレについても、この3種については日出町で確保ができておりません。

以上です。

○議長（金元 正生君） 阿部議員。

○議員（8番 阿部 真二君） できるだけ2,603人が避難想定者数であれば、それに近い分の備蓄量をしっかりと確保していただきたいというふうに思います。

次ですが、海岸線です、低海拔の地域の避難路確保と避難塔、高台等の設置はどういうふうになっているでしょうか。

○議長（金元 正生君） 赤野室長。

○総務課参事兼危機管理室長（赤野 公彦君） お答えします。

津波被害が想定される沿岸部の区につきましては、津波避難行動計画を策定していただき、避難経路等を決めていただいております。まず津波に対してですが、近くの高台を津波一時避難場所と定め、津波の際はまずそこに避難をしていただくような計画になっております。

御質問の中で、まず避難塔ですね、避難タワーだと思いますけれども、日出町については設置がありません。

南海トラフ地震での津波到達までに1時間程度かかることから、塔という狭い場所に避難するよりは高いところで面積も広くて、その後、避難所等に移動ができる津波一時避難場所に避難してもらうことを考えておりますので、塔の設置は今のところ優先的には進めておりません。

そして、避難路につきましてですが、町道につきましては都市建設課でも予算を確保し、年々改修を行っているところであります。その他にも自主防災組織への補助金の中に避難路整備のメニューがありますので、その活用が可能であります。

地元からの要望があれば、担当課と協議して、避難路につきましては改善していきたいと思っております。

以上です。

○議長（金元 正生君） 阿部議員。

○議員（8番 阿部 真二君） 南海トラフを想定した場合、津波に到達時刻が1時間程度ということで、今の状況でも多分、避難が完了するであろうというふうには思いますけれども、特に我々というか私の住んでいる地域、大神港ですけれども、海があったらすぐ山なんですね。避難路がないところがあるので、先ほど地域からの申し出があれば検討するということなんで、ぜひ一人も避難できなかつた人が出ないように対策をしていただきたいというふうに思います。

次ですが、これも学んできたことですが、実際にそういう災害が起きた場合、仮設住宅等を建設するかと思います。そういうときに、仮設住宅をどこに建設するのかの想定はできているで

しようか。

○議長（金元 正生君） 赤野室長。

○総務課参事兼危機管理室長（赤野 公彦君） お答えいたします。

被災者にとりまして、応急住宅は災害発生後の復旧、復興段階において大変重要な場所であります。建設場所の候補につきましては、県と都市建設課のほうで協議をいたしまして、大田公園や川崎運動公園を想定しており、ちょうど今、県との見直しを行っているところであります。実際の建設場所につきましては、倒壊の家屋数や候補地となる場所の被害状況によって対応していくこととなりますので、大分県と協力して確保に努めていきたいと思っております。

○議長（金元 正生君） 阿部議員。

○議員（8番 阿部 真二君） これも岩沼市は被災から数日間ぐらいでできたんですが、たまたまそういう市有地、市が持っている土地で広いところがあったということで、いち早いそういう仮設住宅の建設ができて、被災者の方々を受け入れることができたということなので、今、県等々と検討しているということで大田公園、川崎運動公園が今候補と設定されているということなので、そこも答弁あったとおり被災状況、どれくらいの家屋が壊れたか等々で変わってくるとは思いますが、そういうところも実際に被災したところから学んできたことがたくさんあるので、そういったところの事前の確保もぜひ進めておいていただきたいというふうに思います。それとですね、実際に発災時の被災者のサポート体制について伺いたいと思います。どのような体制でサポートするのか教えてください。

○議長（金元 正生君） 赤野室長。

○総務課参事兼危機管理室長（赤野 公彦君） お答えいたします。

発生災害時の段階によってサポートの内容が変化しますが、議員言われているのが、今回、視察に行かれたところということで聞いておりますので、その研修報告を見させていただきますと、復旧復興段階での状況ではないかというふうに思っております。その頃につきましては避難所も縮小され、仮設住宅に皆さんが移られた頃ではないかと思っております。

その段階での被災者に対しての支援ですけれども、心と体のケアが重要であると考えております。また今後の生活についての不安を解消することが求められると想定されております。

現在、この体制につきましては構築ができておりません。町の職員だけではなく応援に来られる他市町村の職員や、日出町社会福祉協議会の職員と連携して対応していきたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（金元 正生君） 阿部議員。

○議員（8番 阿部 真二君） レポートを見ていただきましてありがとうございます。そうです

ね、やっぱり実際のところは心と体のケア等々が不安解消が非常に大きなポイントになるかと思いますので、その辺、今は体制はないということなので、これからいつ起きるか分からぬ災害に対しての体制をしっかり構築していただきたいというふうに思います。

最後ですが、被災地でのサポート経験者ということで、今の体制にも影響するというか関連するんですが、実際に日出町近隣では実際そういう大きな災害が起きていないので、実際そう起きたときにすぐ行動できる、これをしないといけない、あれをしないといけないという部分マニュアル等もあるかと思いますけれども、実際に経験はないのでそういう被災地でのサポート経験者等々をあらかじめ準備しておくというのもありじゃないかというふうに思うんですけども、そういういったところは何か検討されているでしょうか。

○議長（金元 正生君） 赤野室長。

○総務課参事兼危機管理室長（赤野 公彦君） お答えをします。

議員言われるとおり、これまで災害の経験がありませんのでそういういた職員がいないところであります。ただ、これまでの災害において日出町から職員を派遣して、様々な分野で災害の対応の支援は行っております。東日本大震災では避難所での被災者のサポートを保健師が行っています。九重町には長期間、土木技術者も派遣をしております。また今年の能登半島沖地震では、避難所運営の支援として2名ほど派遣をしております。職員の中にも中心ではありませんけれども、支援という形では参加した者があります。

そのほか、個人的にボランティアとして被災地に支援に行かれた職員もかなり多くいらっしゃいます。こういった職員の経験を日出町でも生かしていければなというふうに思っております。そのほかに、日出町社会福祉協議会の職員さんの中に現地に行って、直接、支援のほうに中心として関わった方、経験者がかなりいらっしゃるので、そういういた方が持つネットワークもお借りしていきたいというふうに思っております。

以上であります。

○議長（金元 正生君） 阿部議員。

○議員（8番 阿部 真二君） 賴もしいというか、そういう経験者も町内にいるということなんですが、そういうサポート体制の中にそういう有識者、実際体験、経験した方をやっぱり中に入つてもらって進めていくのがいいんじゃないかと思いますので、何かあったときにすぐ動ける、町民のその不安等を払拭することを実際やっていただきたいと。多分、そういういたときに一番頼りにされるのが役場の職員だと思いますので、今からそういういた準備も進めておいていただければと思います。

以上で、質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（金元 正生君） ここで10分ほど休憩をしたいと思います。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（金元 正生君） 異議なしと認めます。したがって、10時55分より再開いたします。

午前10時43分休憩

.....

午前10時55分再開

○議長（金元 正生君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。2番、阿部峰子議員。阿部議員。

○議員（2番 阿部 峰子君） 2番、日本共産党の阿部峰子です。

皆さん、御存じのように、日出生台で日米合同演習がいつも行われています。ところが、今回は初めて日・英（イギリス）と合同演習するようです。1月の15日から12日間するそうです。戦争の練習なんて要りません。戦争は絶対にいけません。子供たちを、孫たちを再び戦場に送つてはなりません。

さて、日本共産党日出支部は、町長選挙に当たり立候補者それぞれに幾つかの質問をしました。前回9月議会で質問した残りの部分をお尋ねしたいと思います。

1つ目の質問です。農業問題です。町長は稼げる農業を実現し、なおかつ素人でも参入できる仕組みづくりが重要とおっしゃっています。

1つ目の質問の1つは、現在「白雪姫」といったブランド產品に力を入れています。その他の產品についてもブランド化を支援し、商品単価を高めて収入アップにつなげていくのですが、その他の產品とは具体的にどのようなもので、どのように進めていくのか、教えてください。

○議長（金元 正生君） 町長、安部徹也君。

○町長（安部 徹也君） それでは御質問にお答えいたします。

その他の產品につきましては、今のところ個人的な見解ではございますけれども、真那井の塩トマトであったり、自然薯であったり、梨とか、柿とか、キウイとか、カボチャ、ギンナン、こういったものが候補になるんじゃないかなというふうには考えています。このようなものも含めて、今後、生産者や関係団体、関係機関と慎重に協議の上、進めていければというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（金元 正生君） 阿部議員。

○議員（2番 阿部 峰子君） 申し訳ありませんが、どのように進めていくのでしょうか。

○議長（金元 正生君） 町長。

○町長（安部 徹也君） 御質問にお答えします。

今、お伝えしたとおり、生産者や関係団体、関係機関と慎重に協議の上、ブランド化を進めていきたいというふうに考えております。

○議長（金元 正生君） 阿部議員。

○議員（2番 阿部 峰子君） 皆さん、覚えとってください。関係の方々と慎重に協議の上、進めていくということです。

では、次の質問です。既存の市場のみでは需要供給に左右され、価格が不安定というデメリットがありますと町長おっしゃっています、指摘されています。安定的に高い価格で販売できるように飲食店やホテル、旅館など、新たな販路を開拓し、流通の選択肢を広げる支援を行いますということですが、新たな販路、また流通の選択肢というの構想があるのでしょうか。

○議長（金元 正生君） 町長。

○町長（安部 徹也君） 御質問にお答えいたします。

日出町には別府や湯布院など、日本でも有数な観光地が隣に控えています。特にこの観光地のホテルであったりとか旅館、飲食店などに販路が拡大できればというふうに考えているところでございます。また、ふるさと納税の返礼品も全国に日出町の農産物が知れ渡る重要な販路ではないかというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（金元 正生君） 阿部議員。

○議員（2番 阿部 峰子君） 湯布院や別府も視野に入れ、そしてふるさと納税にそのギンナンや塩トマトや自然薯や、というのを視野に入れているということですね。皆さん、覚えとってください。皆さんと一緒に、町長と一緒に進めていくということです。

では、次です。増え続ける耕作放棄地解消に向け、バーチャル農園などのテクノロジーを活用ということですが、よく分からないので、具体的にどのようなことが教えてください。

○議長（金元 正生君） 町長。

○町長（安部 徹也君） それでは御質問にお答えいたします。

バーチャル農園というのは、日出町以外にお住まいの方がインターネットを通して日出町の農地で農産物を生産するという仕組みになっています。農作業自体は日出町の、日出町にお住まいの農家の方が従事することになります。

また、これはふるさと納税の仕組みを活用してもいいんですけれども、日出町の農地、これを区分けして小規模農地にして、これに借主を募って、そこで自分の作りたい、農産物を代理で作るような日出町の農家の方が代理で作るようなシステムを構築できれば耕作放棄地の対策にもなるというふうに思いますし、農家の収入アップにもつながるのではないかというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（金元 正生君） 阿部議員。

○議員（2番 阿部 峰子君） 日出町以外の人が、日出町の農家と提携して農産物を作っていくことのようなことですか。今、座談会があっていますね。人・農地プランから地域計画へということで座談会があっています。もう既に何回かあっています。真那井全行政、北大神、南大神など行われておりますが、それは農地を分散して、集めて、そして大きくするということだと思うんですが、それと関係がありますか、一緒にやっていくということでしょうか。

○議長（金元 正生君） 河野一利農林水産課長。

○農林水産課長（河野 一利君） それではお答えいたします。

今、進めていますのは、今年の3月までに日出町内で地域計画をそれぞれの地区で作成していくという国の取組の一つというところであります。

今、おっしゃいました、分散していたものを集めていくという部分もありますが、基本はその地域の将来の担い手、農業者、農地をどういうふうにやっていきますかというところを地権者の方も入っていただきまして、あとは中心的な担い手の方も入っていただきましてこの地域をどうやっていくかというところを協議、相談、地図に落としていくという作業をしております。

今、御質問のバーチャル農園、これについても具体的にはその会議の中では出ておりませんが、将来的な構想としては遊休農地の解消というところを踏まえますと一つの策かなということは今後は考えられるというふうに思っております。

以上です。

○議長（金元 正生君） 阿部議員。

○議員（2番 阿部 峰子君） 町長のお考えもその中にありますか。

○議長（金元 正生君） 町長。

○町長（安部 徹也君） 御質問にお答えします。

国の流れとして、今、農業の法人化というのも進めています。これは、やはり後継者の担い手不足ということで法人化して小規模農地を集積して大規模で経営することによって効率アップ、そして稼げる農業につなげるという事業を行っております。

またその一環として、先ほど農林水産課長がおっしゃったように、バーチャル農園みたいなものも組み合わせていくこともできるのではないかというふうに考えているところでございます。

以上です。

○議長（金元 正生君） 阿部議員。

○議員（2番 阿部 峰子君） 今、町長のおっしゃいました稼げる農業、とてもいいと思います

ので、皆さんで参加して共有したいと思います。

では、次にお尋ねします。

ファーマーズスクール支援を行い、後進人材の育成に力を入れることは大事なことだと思います。

現在の支援はどうでしょうか。

○議長（金元 正生君） 町長。

○町長（安部 徹也君） 御質問にお答えいたします。

ファーマーズスクールということですが、現在、農業者や関係団体、関係機関の御協力をいただいて2か年にかけて座学と実習を実践して、知識や技術習得に向けて支援を行っているところでございます。また、研修後のスムーズな就農が行われるよう就農地の確保や各種補助事業を活用した施設整備計画を並行して進めているところでございます。

以上です。

○議長（金元 正生君） 阿部議員。

○議員（2番 阿部 峰子君） 2年かけて勉強して、その方たちが農業ができるようにする。とてもいいことだと思います。ホームページを見ましたら、現在は募集していませんと書かれてあったんです。何か問題があったんでしょうか。

○議長（金元 正生君） 河野課長。

○農林水産課長（河野 一利君） それではお答えいたします。

ファーマーズスクール、今、日出町が取り組んでいるものにつきましては、ハウスみかんの部門を今、取り組んでおります。このファーマーズスクールについては耕地となる生産者の方の協力が必須になります。その中で日出町として生産者団体の中で協議しまして、第1次につきましてはハウスみかんのほうをやりましょうということで今、取組中であります。ですから、今後につきましては予算の関係も出てきますが、生産者の方とまた話しながら、部門のファーマーズスクールを広げていくとか、そういった協議が今後出てこようかなと思っております。

中断しているという意味では、今、第1期がやっておりますので、第2期までの部分は公募していないという意味でございます。

以上です。

○議長（金元 正生君） 阿部議員。

○議員（2番 阿部 峰子君） 第1期が今、ingですか。そして2期目はまだ募集をしていないという、この段階なんでしょうか。

○議長（金元 正生君） 河野課長。

○農林水産課長（河野 一利君） お答えします。

大変すみません。説明があれですけれども、今、第1期分の2年目に入っているところでござ

います。並行して次のファーマーズスクールにつきましては、まだ募集はしておりませんという意味でございます。

以上です。

○議長（金元 正生君） 阿部議員。

○議員（2番 阿部 峰子君） 分かりました。経過を見たいと思います。ありがとうございます。

ではスマート農業、また第1次産業の6次化というのはどんなことかとお尋ねしたいんですが、一応インターネットで調べましたら、生産と加工と流通、販売を一体にして行うということらしいんですが、まだよく分かりませんが、農業の方が大きくしようと思えば収穫ロボットを使ってやるというようなことがありました。その収穫ロボット1台500万円もするようなのを農家の方がするのかなとよく分からないので、説明をしてください。

○議長（金元 正生君） 河野課長。

○農林水産課長（河野 一利君） それではお答えいたします。

まず、スマート農業と6次化、この部分を説明させていただきたいと思います。

スマート農業につきましては、議員おっしゃいましたとおりロボット技術やAI、それからICT技術を活用しまして、機械も自動化しながら食料生産の省力化や生産性の向上、それから高品質化などを期待される農業というところでございます。

先ほど議員がおっしゃいました部分につきましては、6次産業化の部分が大半を占めております。6次化につきましては、まず1次産業、農林漁業者が生産する部門ですね、この部分が1次産業になります。その次が2次産業ということで、主に加工のほうになってまいります。3次産業につきましては、それができたものを販売したりサービスを届けたりするものが3次産業ということで、これを掛け合わせたものが6次産業と、掛けるというのが1掛け2掛け3ですね、それで6次産業というふうに一般的に呼ばれているというところでございます。

簡単ですが、以上です。

○議長（金元 正生君） 阿部議員。

○議員（2番 阿部 峰子君） 町長の構想としては、この日出バージョンを考えるということなんでしょうか。

○議長（金元 正生君） 町長。

○町長（安部 徹也君） この1次産業、6次化、日出バージョンを考えるというよりは、これまさにそのものでして、農家の方々が生産を行うだけではなかなか稼げる農業になりません。例えば、真那井の塩トマトでいうと、自分のところで作って、自分のところで加工して、自分のところで販売をしております。そうすると、この農業についても非常に利益率の高いそういうビジネスにもなり得るということで、今後はこういった農業についても6次産業化を進めていくことに

よって、日出町の農家の皆さんのが稼げるようになるということを考えている次第でございます。

以上でございます。

○議長（金元 正生君） 阿部議員。

○議員（2番 阿部 峰子君） 今後のことを見て、みんなと一緒に作り上げていくということに参加したいと思います。

6次産業化支援事業補助金についても問合せがあるかもしれませんので、今後考えておく必要があると思います。

では、大きい2つ目の質問です。

農業の振興と同様に、漁業の振興についても漁師さんの高齢化、後継者不足、漁獲高の減少、お魚の値段の低迷、燃油の高騰など、実に様々な問題を抱えていますと、町長、把握されております。また稼げる農業と同じで、稼げる漁業を実現し、なおかつ素人でも参入できる仕組みづくりが重要とおっしゃっています。その中の、城下かれいや別府湾ちらめんなど、ブランド品がありますけれども、その他の产品は何でしょうかと思って、ハモぐらいかなと思うんですが、どのように商品単価を高めて漁業の方の収入アップにつなげていくのか、町長の構想をお願いします。

○議長（金元 正生君） 町長。

○町長（安部 徹也君） 御質問にお答えいたします。

現状、产品で言えば、今、阿部峰子議員がおっしゃったように、ハモが対象になるんじゃないかなというふうには考えております。またちょっとその他の产品につきましては、漁業に従事する方、また関係団体、いろんな聞き取りを行いながら、これ農業と同じですが、今後はやはりそういう方々と慎重に協議の上、しっかりとこのまた稼げる漁業についても進めていければなというふうに考えているところでございます。

以上でございます。

○議長（金元 正生君） 阿部議員。

○議員（2番 阿部 峰子君） 農業でもありましたが、新たな販路の模索は具体的にはお持ちなんでしょうか。

○議長（金元 正生君） 町長。

○町長（安部 徹也君） 御質問にお答えいたします。

この漁業に関しても、やはり農業と同じだと思うんですけども、できればセットで日出町産の1次産品ということで、農産物とか漁介類とかセットで販売していくとまた効果もあるのかなというふうには思うんですけども、やはりその別府や湯布院のホテルとか旅館、飲食店ですね、こういったところに販路を拡大できればなというふうに思います。

また同じくふるさと納税もしっかりとまた取り組んでいければなというふうに考えているところでございます。

以上でございます。

○議長（金元 正生君） 阿部議員。

○議員（2番 阿部 峰子君） また農業と同じになるんですが、ファーマーズスクールと同じような、フィッシャーマンズスクールも構想にあるようです。何らかの支援をする、作り上げて支援をするというような予定もあるのでしょうか。

○議長（金元 正生君） 河野課長。

○農林水産課長（河野 一利君） それではお答えいたします。

フィッシャーマンズスクールにつきましてでございますが、新規漁業就業者への研修というところで、このフィッシャーマンズスクールというのが出てくるわけですが、この研修につきましては国の長期研修と大分県の漁業学校というのがあるんですけれども、そっちのところが主になります。長期研修については漁師の船に一緒に乗って研修を行うと、実施するということになりますので、このファーマーズスクールとは全て一緒ではないんですが、あくまでも現地研修が主となって、漁師の方が対応すると、農業の場合は農業者の方が対応するということですので、少なからず似ていると、内容は、そういうことになっております。

今、日出町のほうでもこのフィッシャーマンズスクールの中で県外から1名の方が今、研修を実際受けております。今後は、この方に対しまして、いろんな支援をしていこうということで、漁協のほうと一緒にになってやっていこうということにしております。

簡単ですが、以上でございます。

○議長（金元 正生君） 阿部議員。

○議員（2番 阿部 峰子君） 町長にお尋ねします。

スマート漁業、第1次産業の6次化というのも同じような、農業と同じようなものでしょうか。

○議長（金元 正生君） 町長。

○町長（安部 徹也君） 御質問にお答えいたします。

スマート漁業についてはスマート農業と同じように、ＩＣＴの技術を使って、よりその魚がいるところを発見して効率的に捕れるか、そういうものになっています。後ほどまたちょっと御紹介したいと思うんですけども。

6次化についても、例えば魚をそのまま売るのではなくて、りゅうきゅうなどに加工して自社で販売していくことによって、高い利益を上げることもできるということになっておりますので、漁業についてもそういうスマート漁業や6次産業化、こういったものも検討してまいりたいと考えているところでございます。

以上でございます。

○議長（金元 正生君） 阿部議員。

○議員（2番 阿部 峰子君） 技術を使って大きく育てて、加工して販売する、私たちもとても興味があるし、一緒に見ていきたいと思っています。だから、町長は獲る漁業から今おっしゃつた育てる漁業というお考えです。日出町の漁獲高が大幅に減少している原因の1つに、魚の獲り過ぎがあるというふうにおっしゃっています。育てる漁業と別の柱に考えているのかなと、そのところがよく分からないので育てていく必要があるというところをもうちょっと詳しく教えてください。

○議長（金元 正生君） 町長。

○町長（安部 徹也君） 御質問にお答えいたします。

12月2日、つい最近なんですけれども、FNNでこんなニュースが報道されました。ちょっと御紹介させていただくと、陸上養殖に大手企業の参入が相次ぐ中、NTTコミュニケーションズが陸上養殖システムの販売に乗り出す。NTTコミュニケーションズは情報通信技術を活用し、水質などを魚の種類に応じて管理する陸上養殖システムの販売を開始すると発表。バクテリアを使わないろ過技術により、狭い水槽でも多くの魚を育てることができるとして、まずは沖縄の高級魚、アーラミーバイなどハタ類の養殖から始めて順次種類を増やすことにしていく。陸上養殖は生産環境をコントロールすることができるので、生産計画も立てやすく、何より在庫数が分かる。そのような意味で陸上養殖は企業参入しやすい。魚介類の4割を輸入に頼る中、陸上養殖をめぐっては商社など大手企業の参入が相次いでいる。NTTコミュニケーションズはシステム販売により参入へのハードルを下げ、食料自給率の向上や地域活性化につなげたいとしている。

このように、今現状は陸上で育てる漁業というのがトレンドにございまして、現在、国は魚介類の食料自給率を向上させるために、陸上養殖の補助を積極的に出しているところでございます。この流れに乗って国や民間企業、そして漁業関係者と一緒にになって、育てる漁業の推進に努めていきたい、そういうふうに考えているところでございます。

以上でございます。

○議長（金元 正生君） 阿部議員。

○議員（2番 阿部 峰子君） 今後の構想というのが分かりました。一緒に進んでいきたいと思います。

3つ目の質問です。豊岡公園についてです。

豊岡公園は、防災公園として国から補助を受けて令和7年度に園内道路と多目的広場が完成する予定です。私たちは、豊岡公園はここまでにすべきだと考えています。

そこで、1つ目の質問です。橋を造っている部分の上の斜面が土砂災害警戒区域になっている

ことは御承知でしょうか。

○議長（金元 正生君） 豊田博都市建設課長。

○都市建設課長（豊田 博君） それではお答えいたします。

豊岡公園につきましては、議員が言われるとおり国土強靭化計画に資する事業ということで、防災公園建設事業として国からの補助金を活用し、事業を進めております。

整備している場所については、土砂災害警戒区域、特にイエローゾーンになっていることは承知しております。ただ災害の種類によっては指定避難所や指定緊急避難場所の指定ができますので、防災公園として整備をしております。現在、この豊岡公園の周辺には豊岡小学校、豊岡地区公民館、団地集会所などもあり、災害時の一時避難場所や指定避難所として指定されております。公園の完成後については、災害の避難地としての役割を果たすものと当課は考えております。

また、この地域の河川の上流部につきましては、大雨対策による砂防ダムの整備が行われておりますし、今回の橋についても橋梁による施工により、大雨のときでも十分な断面を確保できるように進めておりますので、地震以外に対してもこの避難場所としても指定ができるのではないかと当課では考えております。

以上でございます。

○議長（金元 正生君） 阿部議員。

○議員（2番 阿部 峰子君） 土砂災害警戒区域になっていることは承知されているということでした。災害の種類によってはというのは後で説明してもらいたいんですけど、どういうことですか。

○議長（金元 正生君） 豊田課長。

○都市建設課長（豊田 博君） 災害の種類といいますのは地震とか、土砂災害もありますけども、主に地震の災害におきましては津波が来るということで、高台のほうに逃げられる場所ということでございます。

以上でございます。

○議長（金元 正生君） 阿部議員。

○議員（2番 阿部 峰子君） 地震、津波ということで分かりましたが、町長にお尋ねします。

町長はこの周辺を民間委託したいと常々おっしゃっております。土砂災害警戒区域を民間に丸投げするというのは、どうしても納得がいかなくて、丸投げするためにはやっぱりきれいに整備をして、どうぞ来てくださいというふうに、またお金も使ってなるんじゃないかと心配しています。周辺住民の声も幾つか入ってきているんですけど、もうここまででよいというのが一番多い答えです。なので、もうこれでよい、令和7年度まででよいというふうに聞いています。もう一度、周辺住民に問い合わせなど、一旦踏みとどまる決断をお願いしたいと思ってますが、町長のお考

えを聞かせてください。

○議長（金元 正生君） 町長。

○町長（安部 徹也君） 御質問にお答えいたします。

この豊岡公園については、令和7年度に多目的広場と園内の道路、これを完成させる予定でございます。その後は当初の計画は、その上部に展望公園等を作るという計画になっておりまして、私が議員の頃、その予算としてもう数億円の予算がかかるだろうというような試算を聞いた記憶がございます。

ただ、阿部峰子議員がおっしゃったことは、町がまずきれいにして民間委託をするというような話でしたが、この上部についてはパークPFIという方式を使って、もう全て民間の業者に開発をしていただければ、町の負担というのは全くなく、そして毎年の管理費用もかからないというような計画で今進めておりますので、今後はいろんなサウンディング調査をしながら、また今後の方針は決定していければというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（金元 正生君） 阿部議員。

○議員（2番 阿部 峰子君） 何調査ですか。

○議長（金元 正生君） 町長。

○町長（安部 徹也君） 御質問にお答えいたします。

サウンディング調査といいまして、これは市場調査、すいません、日本語で言うと市場調査ということになります。

以上でございます。

○議長（金元 正生君） 阿部議員。

○議員（2番 阿部 峰子君） それは賛成です。周りの周辺住民に問い合わせなど、本当に一旦踏みとどまって市場調査を重ねてほしいと思います。

以上です。

.....

○議長（金元 正生君） 5番、豊岡健太議員。豊岡議員。

○議員（5番 豊岡 健太君） 5番、豊岡です。通告書に従って質問をします。

今回は大きく2点ありますが、まず防災・減災について伺います。

防災関連の質問はこれまで多くの議員から質問があり、私自身も3月議会において質問をさせていただきましたが、9月から町長が変わり、町長選挙において、安部徹也町長は防災・減災に取り組む旨の公約を掲げています。

そこで伺います。町長は、誰もが安心・安全に暮らせる町へ、そして防災・減災に強いまちづ

くりを掲げていますが、その具体的構想をお聞かせください。

○議長（金元 正生君） 町長、安部徹也君。

○町長（安部 徹也君） 御質問にお答えいたします。

まず、ハード対策としては防災公園の整備・避難路の整備がございます。

先ほど阿部峰子議員の御質問にもございましたが、豊岡公園にどういった機能を持たせていくのか。また、これは私が消防議員のときからそのお声を聞いているんですけれども、消防車や救急車が通らない道路、日出町まだまだたくさんございます。この道路をどう改善していくのか、もしくは道路の改善ではなくて、その狭い道に入っていく消防車や救急車を整備していくのか。また国土強靭化のため国の予算をどのように活用してこのようなハード面を整備していくのか。今後、しっかりとまた関係課と協議して検討してまいりたいというふうに思っているところでございます。

また次に、ソフト対策としてですが、指定避難所と福祉避難所をどのように充実させていくのか。地域の防災力を今後どのように強化していくのか。こういったこともしっかりとまた検討していきたいというふうに考えているところでございます。

先週、区長会で防災・減災の視察に行ってまいりました。その際、大雨被害と地震被害の被災地を視察してまいったところでございますが、現地の方のお話によると、やはりまずは自助・共助が必要だと。そしてそれにプラスアルファ、公助が重要になってくるというお話を伺いましたので、この自助・共助・公助、それぞれで防災意識を高めて大災害、もし起きたときにはしっかりとまた対応できるようなまちづくりを行っていきたいというふうに考えているところでございます。

以上でございます。

○議長（金元 正生君） 豊岡議員。

○議員（5番 豊岡 健太君） ハード、ソフト両面からというお話でした。

災害に強いまちづくりというのは、労力、そして時間とお金がかかることから、一足飛びにはいかないのは皆さん御存じのとおりだと思います。かといって悠長にはいきません。ぜひ町長に優先順位を明確にして、一歩一歩、町長の考える災害に強いまちづくりに向けて歩みを進めていただきたいなというふうに思います。

②の質問です。こちらも町長の公約にあります道路や水道耐震化などのインフラ整備について伺います。

道路のインフラ整備に加え水道耐震化も防災・減災に深くかかってくるものだというふうに思います。今年の3月議会でもこの水道の耐震化について一般質問させていただきましたが、町長が変わり、そして安部新町長は町民の声が反映された住み心地のよい町へと掲げた方針の中で、

水道の耐震化を行うとありました。まずは町長が考へている具体的方針とスケジュールについて考へをお聞かせください。

○議長（金元 正生君） 藤井英明上下水道課長。

○上下水道課長（藤井 英明君） 御質問にお答えいたします。

水道施設及び幹路の耐震化については、第5次日出町総合計画や日出町水道事業経営戦略及び水道施設耐震化計画に基づき進めています。耐震化の基本方針は、配水池等の基幹施設については簡易耐震診断による耐震評価を含めた総合評価結果から判断し、また導水・送水・排水本管から構成される基幹管路については、管種や布設年度及び布設地盤等から想定される被害結果からそれぞれ優先度を設定し、計画的に進めるものです。

さらに、医療機関や避難所等の重要施設に接続する水道施設及び管路の耐震化や更新を重点的に進める方針としています。

現在のスケジュールとしましては、計画期間を令和4年度から令和13年度までの10年間としており、この中で、施設については配水池等の8施設の耐震化の実施を、また管路については約30キロメートルの更新を計画しているところです。また、計画期間の予算見込みについては、日出町水道事業中期財政収支計画を策定しており、10年間で約25億円を予定しておるところです。なお、財源につきましては企業債発行により対応する予定としております。

ただし、本年9月に国から令和7年1月末を起源とする上下水道耐震化計画の策定が要請をされております。当計画は災害に強く、持続可能な上下水道システムの構築に向け対策が必要となる上下水道システムの救助施設や避難所等の重要施設に接続する上下水管路等について、上下水道一体で耐震化を推進するためのものと定義をされているところです。

現在、この計画につきましては策定作業を行っており、計画策定後は国の補助金等を利用した耐震化事業等の実施を見込んでいるところでございます。

以上です。

○議長（金元 正生君） 豊岡議員。

○議員（5番 豊岡 健太君） 予算の見込みと財源についてもお話しをいたいかと思います。

以前も水道耐震化についてお聞きさせていただいてますので、ある程度はちょっと存じ上げているんですが、今回、町長が公約に掲げていましたので、町長の考え方というのをお聞かせ願えたらと思います。

○議長（金元 正生君） 町長。

○町長（安部 徹也君） 御質問にお答えいたします。

日出町の水道の上水道の耐震化率、これは大分県下でも非常に低い数字になっております。通常、こういう設備というのは豊岡議員も経営者でございますから御存じだと思いますけれども、

減価償却の範囲内でやっていくというのが無理のない設備投資計画になりますが、今回10年間で25億円、これは減価償却以上、借入を起こしてしっかりとこの耐震化を進めていく、そういう覚悟で、この上水道の耐震化については取り組んでいきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（金元 正生君） 豊岡議員。

○議員（5番 豊岡 健太君） 他市町村と競争するわけではありませんが、遅れているのは事実ですので、今、町長から強い発言がありましたので、ぜひしっかりと引き続き、また注視していきたいと思いますのでよろしくお願ひします。

次に、③の質問です。真冬に発生した能登半島地震において避難生活を余儀なくされた人たちが困ったこととして、避難所が寒すぎるという声がありました。能登半島の避難所では、灯油が尽きたりエアコンが壊れたりといった事態に直面した避難所が大変多くあったそうで、特に体育馆に避難した人々は、大変苛酷な避難生活を送ったそうです。

日出町では、ダンボールベッドを今年の3月の時点で176個用意しているとのことでしたので、避難者数にもよりますが、避難所で床に直に座ることは少なさそうですが、それでも真冬の避難所は相当な寒さが予想されます。

そこで伺いますが、まず、日出町の避難所の冷暖房器具の設置状況をお聞かせください。

○議長（金元 正生君） 赤野公彦危機管理室長。

○総務課参事兼危機管理室長（赤野 公彦君） 避難所の冷暖房器具の設置状況ですが、指定避難所16か所についてお答えいたします。

まず、冷暖房設備が既にあるものは、各地区公民館、保健福祉センター、川崎体育馆の7か所であります。暖房器具を配置しているのは、各小中学校体育馆と中央体育馆の9か所であります。さらに、冷房器具を配置しているのは、大神小学校体育馆と中央体育馆の2か所であります。

以上です。

○議長（金元 正生君） 豊岡議員。

○議員（5番 豊岡 健太君） 電気を当然使うと思うんですけども、灯油とか軽油といった燃料というのは備蓄しているのでしょうか。

○議長（金元 正生君） 赤野室長。

○総務課参事兼危機管理室長（赤野 公彦君） お答えいたします。

燃料につきましては、まず、先ほど述べました暖房器具につきましては、電気と灯油が必要であります。冷房器具につきましては、電気が必要になります。

御質問の灯油等につきましては、備蓄は置いておりません。今、日出町でありますのは、ガソリンの缶詰タイプのものを備蓄しているところであります。十分ではないというふうに考えて

おります。

以上です。

○議長（金元 正生君） 豊岡議員。

○議員（5番 豊岡 健太君） 少量とはいえ、ガソリンが備蓄されているということでしたけれども、大体で結構なんすけども、どのぐらいあるんですか。

○議長（金元 正生君） 赤野室長。

○総務課参事兼危機管理室長（赤野 公彦君） お答えいたします。

1か所、4リットルの16か所だと思いますので、64リットルになると思います。

以上です。

○議長（金元 正生君） 豊岡議員。

○議員（5番 豊岡 健太君） ありがとうございます。消防法の関係もあって、大量の備蓄というのには多分難しいんだなというふうに思います。

ちなみに、町内の石油会社、ガソリンスタンドとは、町は連携されているんですか、提携ですか、いかがでしょうか。

○議長（金元 正生君） 赤野室長。

○総務課参事兼危機管理室長（赤野 公彦君） お答えいたします。

燃料についての協定状況ですけれども、速見郡杵築市危険物安全協会と協定を結んで、燃料等の支給を行うようにしております。

以上です。

○議長（金元 正生君） 豊岡議員。

○議員（5番 豊岡 健太君） 提携されているということですよね。ざっくりと言いますか、簡単に結構なんすけれども、被災時に町とガソリンスタンド、どういう連携を取るんですか、イメージを教えてください。

○議長（金元 正生君） 赤野室長。

○総務課参事兼危機管理室長（赤野 公彦君） 提携の内容につきましては、危険物を扱う、主にガソリンスタンドさんの杵築速見ですね。消防本部が中心になって、今、会がありますので、消防本部さんが中心になってやっております。提携の内容につきましては、消防本部に連絡をして、消防本部が手配をしてくれるというふうになっております。

以上です。

○議長（金元 正生君） 豊岡議員。

○議員（5番 豊岡 健太君） では、町とガソリンスタンドが直接やり取りするわけではなくて、消防本部が間に入って、消防本部が指揮を取るようなイメージでよろしいですかね。分かりまし

た。

大分県のホームページのほうにも載っているんですが、国や各都道府県が、満タン＆投油プラス1缶運動というのを推奨しています。これは何かと言いますと、日頃から車の燃料メーターが半分程度になったら満タンにするということと、暖房用の灯油は1缶多めに保管することを心がけることで、これらが被災時に備える活動になるということです。この運動は、2016年に発生した熊本地震の翌年の2017年に始まりました。災害が発生すると、ガソリンや暖房用の灯油を求める人がガソリンスタンドに殺到して、スタンド周辺の道路で大渋滞が発生し、緊急車両や救援物資車両の運行を妨げることになります。

この運動のメリットとしては、先ほどの燃料を求める人が殺到するという混乱を回避することができたり、車を避難所として使ったり、灯油の供給が止まったときの備えになることから、国や県が推奨しています。日出町としても、平時における町民個人の燃料備蓄について、この満タン＆投油プラス1缶運動の啓発に努めていただきたいのですが、いかがでしょうか。

○議長（金元 正生君） 赤野室長。

○総務課参事兼危機管理室長（赤野 公彦君） お答えいたします。

そういう運動があるというのは、実際、初めて知りました。ただ、公用車の燃料メーターを半分になったらガソリンを入れるという話は、以前、災害を経験された亘理町の職員の方が言わっていたというのを思い出しました。災害に対する備えをという言葉だけで伝えるのではなくて、議員さんが言われたような、そういう運動を、そういう視点を参考に啓発をしていきたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（金元 正生君） 豊岡議員。

○議員（5番 豊岡 健太君） ぜひ町報等でも啓発を行っていただきたいというふうに思いますので、よろしくお願ひします。

次に、④の質問です。聞き慣れない言葉かもしれません、フェーズフリーという言葉があります。これは、身の回りにあるものやサービスを平常時・非常時関係なく、どちらの場合でも役立てることができるという考え方です。備えない防災とも言われており、例えば濡れた紙にもかけるボールペンだったり、紙コップにメモリ付きデザインが入っており、赤ちゃんの授乳時や、炊き出しの際に軽量カップとして使ったり、また、撥水生地を活用したバッグで非常時にはバケツ代わりになる、といった様々なフェーズフリー商品がたくさんあります。

最近目にするようになったのは、レスキューホテルと呼ばれるコンテナ型のビジネスホテルで、災害時にはトラックでコンテナの客室ごと移動して、感染者や被災者の宿泊施設として機能しますが、これもフェーズフリーと言います。

通告書では、日用品に関して質問していますが、現状と今後の方針についてお聞かせください。

○議長（金元 正生君） 赤野室長。

○総務課参事兼危機管理室長（赤野 公彦君） お答えいたします。

フェーズフリーという言葉は初めて聞く言葉でしたので、調べましたが、大変有益な概念、考え方であるというふうに感じました。

現状についてですが、これについての対応は特にしておりません。

今後についてですが、考え方という点で活用ができるというふうに思っております。例えば、防災において、家庭での備蓄や準備が特に重要であります。よく何をしていいか分からぬという声を聞きます。その際、フェーズフリーという考え方で行動してもらうことで、備蓄へのハードルが下がるのではないかというふうに思っております。カップ麺やそうめんといった日ごろから消費するものを買いそろえ、食べた分だけ補充するローリングストックとか、そういうもののから無理なく取り組んでいただくように啓発をしていきたいというふうに思っております。

そのほかにも蓄電池として使える次世代的自動車の購入や、公園の災害ベンチ等の設置等の検討を各課にお願いをしていきたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（金元 正生君） 豊岡議員。

○議員（5番 豊岡 健太君） 今、いろいろ答弁いただきましたけども、この、今おっしゃったように、フェーズフリーという考え方そのものを日出町の防災に取り入れていってほしいと思いますので、ぜひ研究をしていただいて、今後に生かしていっていただきたいというふうに思いますのでよろしくお願ひします。

⑤の質問です。

議会初日の委員長報告にもありました、11月に開催された福祉文教常任委員会に置いて、住民生活課から、災害時、ペット同行同伴避難ガイドラインが策定される旨の説明がありました。

今回のガイドラインは、町民の安全や命あるものを大切にするという視点に立ち、避難所にペットを連れて避難することが可能であることを周知するとともに、ペットを連れて避難するために飼い主が普段から備え、取組を進める上での心構えとして作成したとの説明でした。

そこでですが、やはり私はできるだけ早い段階で訓練を実施するべきだというふうに思います。毎年の防災訓練の中に取り入れて実施するのが効率的だとは思いますが、見解を伺います。

○議長（金元 正生君） 赤野室長。

○総務課参事兼危機管理室長（赤野 公彦君） お答えいたします。

議員さん言われましたように今回のガイドラインにつきましては、避難をすることは可能であるというような周知と、ペットと飼い主さんの方に向けての心構えという視点で書いております。

今後につきましては、まずこちらの避難所の受入れ側として、避難所運営マニュアルや防災計画の中でペット同行避難の受入れについてその項目を充実していきたいというふうに思っております。

ためらわずに避難していただきたい、受入れが円滑になるように、そのための訓練が必要だというふうに感じておりますが、今後、検討をしていきたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（金元 正生君） 豊岡議員。

○議員（5番 豊岡 健太君） 必要性は恐らく感じてらっしゃると思いますので、今、今後検討ということでしたが、実施するとしたら課題とかどういったものが挙げられるか、お考えお聞かせください。

○議長（金元 正生君） 赤野室長。

○総務課参事兼危機管理室長（赤野 公彦君） 訓練を行う際の課題でありますけども、訓練を計画するに当たりましては、どのような計画を立ててどこを検証するかということを考えないといけないと思っております。ペットの方ですと参加者をどう決めるか、どこに声掛けをするかということがありますし、マニュアルを今、ペット避難同行者の受付のマニュアルはできておりますけども、そのマニュアルを使って実際にうまく行くかどうか、そういうものを確認したいと思います。

実際に避難をしていただきて、避難された方が必要となるものはないかというのも検証が必要ではないかというふうに思っております。

こういったふうに、いろいろ計画を立てるのはなかなか難しいと思ってますので、計画ができましたら実施していきたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（金元 正生君） 豊岡議員。

○議員（5番 豊岡 健太君） 避難訓練、年何回行っているか、今、分かりませんけども、今年度とは言いませんけども、来年度は初回の避難訓練をできるように、ぜひお願いしたいというふうに思います。

今回のガイドラインを作るに当たって、様々な状況を想定しているとは思いますが、やはり訓練で経験をしておかないと、分からぬことが多いと思いますので、できる限り早い時期での訓練の実施をよろしくお願いしたいというふうに思います。

それでは、⑥の質間に移ります。

委員長報告にもあったとおり、福祉文教常任委員会は10月に宮城県岩沼市と友好都市である亘理町に災害対応関連で視察に行きました。学校教育課長にも同行いただきて、被災後の児童・

生徒への学びの支援事業について活発の議論があったことは、記憶に新しいところです。

亘理町での被災児童・生徒へのメンタルケア対応の視察を踏まえて伺います。東日本大震災を受け、亘理町では子供たちに対し様々な学習支援を行いました。スクールカウンセラーを配置した心のサポート、学校復帰支援の自立サポート、学習支援である学びサポートを行い、震災による影響を受けた児童・生徒への対応の話がありましたが、今回の視察を受け、日出町では今後どのように被災児童・生徒へのメンタルケアに取り組む方針でしょうか、お聞かせください。

○議長（金元 正生君） 竹内由佳学校教育課長。

○学校教育課長（竹内 由佳君） お答えいたします。

亘理町での視察に参加させていただきまして、被災児童・生徒のメンタルケアについて亘理町教育総務課より説明をお聞きしました。少し所感も述べさせていただきたいと思います。

亘理町では、大きく議員おっしゃられましたように、学習支援と専門職との連携が重要な役割を果たしたということを感じました。学習支援につきましては、学習活動の充実が子供たちにとっては日常生活の一部を取り戻すということや、自分自身を表現し、自己肯定感を高めることにつながったとの話をお聞きしまして、児童・生徒の心の安定が学習活動と密接に関わっているということを感じました。また、専門職との連携体制につきましても、特に先ほど議員からもございましたけれども、スクールカウンセラーの活用の重要さを感じました。各学校で職員会議とは別に、スクールカウンセラーを中心とした子供を語る会というのを震災後、新設した、その後、長く続けたという話を聞きまして、全教職員の共通理解とともに、スクールカウンセラーの専門的見地からの助言を受けることで、児童・生徒の理解が深まること、それから相談体制の強化につながることは当然でございますけれども、取組そのものが教職員の研修の場にもなった、スキル向上に役立ったというようなことでございました。被災した場合に限らず、教育相談体制に関わって非常に参考になる取組だと感じております。

日出町におきましてですが、日常の状態の観察や教育相談の実施など、教員が教育活動の中で子供の状況を把握することに加えまして、各種アンケートや心の健康観察など客観的な方法でも児童・生徒の様子を把握するように日頃から行っているところでございます。災害等の非常時には、現在配置しているスクールカウンセラー2名に加えまして、大分県より緊急配置も行えることになっています。各学校の危機管理マニュアル、学校防災マニュアルにも、児童・生徒の心のケアに関する対応も記載しております。

今回の視察を受けまして、それらがより充実したものになるよう、見直しを含めた指導を行つてまいりたいと考えております。

これまでの阪神淡路大震災、東日本大震災の経験を経て、児童・生徒のメンタルケアの重要さ、それから留意すべき点につきましては、現場の様々な取組の下、全国での実践の積み上げがなさ

れてきております。被災地の教職員や教育委員会職員の御自身も被災しながらの必死な取組に学びまして、平素から研修と備えを積み重ねる必要性を強く感じたところでございます。今後もしっかり取り組んでまいります。

以上でございます。

○議長（金元 正生君） 豊岡議員。

○議員（5番 豊岡 健太君） 中身の濃い答弁、ありがとうございました。

私も亘理町の前に行つた、岩沼市の視察研修でも感じたのですが、子供だけに限らず住民同士、また行政と住民が日頃からコミュニケーションを密にしていれば、もしものときに支え合うことがスムーズにできるのではないかというふうに感じました。

教育長にお聞きしますが、今回の視察の報告を受けて何か所感があれば教えてください。

○議長（金元 正生君） 教育長、恒川英志君。

○教育長（恒川 英志君） お答えいたします。

課長の報告を受けまして、非常に中身の濃い取組をされておるということで、非常に感銘を受けました。その中で、教育委員会が主体となって取り組むべき対応も多々ありますので、今後、先進地のいろいろな取組を参考にしながら、改善すべき点は取り組んでいきたいというふうに思っております。

それと併せて、やはり思いましたのが、大規模災害が起つたときには、やはり最も重要なのが各学校の校内体制をしっかりと整えること、それから、町や教育委員会の支援体制を整えること、この2つが同時に行われなければいけないというふうに考えております。

もちろん、児童生徒のメンタルケアにつきましても、各学校の管理職、担任、養護教諭等々が情報共有しながら、組織的に行動し、また対応することが重要になってきますが、その各学校の状況を教育委員会の方が正確に把握しながらできる支援体制を早急に構築していくというスムーズな流れが今後必要になってくると思っております。

その大混乱の中でも、それらのことがスムーズに行われるよう、各学校では危機管理マニュアルを策定しております。それに基づいて定期的に訓練も行っておりますが、先進地の内容に学びながら、常にバージョンアップをしながら、一番大切なのが、それを全教職員が、我々を含めた教職員が周知することが非常に大切になってくると思いますので、先ほど課長申しましたように、それらを含めまして指導・助言を今後進めていきたいというふうに考える次第でございます。

以上です。

○議長（金元 正生君） 豊岡議員。

○議員（5番 豊岡 健太君） 今、おっしゃったように、ぜひ被災地の教訓等も踏まえてプラスアップしていっていただきたいなというふうに思います。

次の、文化財保護についても、後ほど所感をお聞きしたいと思いますので、よろしくお願ひします。

今回の視察で、児童・生徒へのメンタルケアは、先生たちだけで行うものではなく、やはり地域一体で行うことが重要だと改めて感じましたし、そのためにも、常に日頃から様々な形で、学校・子供・地域のつながりを大切にする日出町であってほしいなというふうに願っておりますので、教育長をはじめとする教育委員会の皆さんには、特に今後ともよろしくお願ひしたいというふうに思います。

次の、⑦の質問です。こちらも亘理町の視察研修を受けての質問になりますが、質問が抽象的で申し訳ありませんが、亘理町の郷土資料館において、結構な時間を割いて、被災時の文化財保護対応の話を聞きしました。それを踏まえて、今後、日出町において、被災時の文化財保護復旧に関してどのように取り組んでいくのか、考えをお聞かせください。

○議長（金元 正生君） 河野英樹社会教育課長。

○社会教育課長（河野 英樹君） お答えをいたします。

まず、被災時の文化財保護復旧につきましては、まず人命の安全確保が図られた上で、できる限り早期に被災文化財の保護を行うことが強く求められます。文化財の所有者だけでの対処は困難であり、当課の社会教育課文化財専門の担当職員が陣頭に立ち、被災文化財の救護、様々な救済支援に従事することとなります。早期に救護が行われることで、被災文化財の損傷や劣化を最小限に止めることができ、文化財の価値を損なうことなく、適切な修理・復旧が図ることができます。

また、被災時には地元・近隣の有識者の方々の協力をいただきながら、迅速かつ適切な救護・復旧の実現を目指していきたいと思います。

文化財の災害への備えについては、御承知のとおり、文化財は一たび損失すると元の姿に取り戻すことは極めて困難で、仮に取り戻せたとしても、歴史的に培われてきた固有の価値までも取り戻すことは決してできません。そのため、日頃より文化財の保存状況や環境を把握することが非常に重要です。日出町文化財保護委員会と年3回、町内の指定登録文化財44件の巡回活動を行い、文化財の保存状態や管理の状況、周囲の環境などの現地確認をし、文化財所有者への助言等を行っております。

また、1月26日は文化財防火デーに定められ、この日を中心に総務課危機管理室・地元消防団・消防署の協力をいただき、防災訓練を行っております。これに併せて文化財所有者に文化財防災啓発を行っているところです。住民が自ら身近な文化財を守る取組は、防災意識の向上と文化財の保護の理解も深まると感じており、今後も引き続き地域の安全と文化財の保護に努めてまいります。

以上です。

○議長（金元 正生君） 豊岡議員。

○議員（5番 豊岡 健太君） 大変内容の濃い答弁、ありがとうございました。

また、教育長、お聞きしますけれども、今回の文化財について、所感があれば教えてください。

○議長（金元 正生君） 教育長。

○教育長（恒川 英志君） お答えいたします。

教育委員会には、地域の歴史・文化を次世代に伝えるという重要な役割があると捉えております。それゆえ文化財保護の責任にも重大な責任を担っており、災害時には迅速かつ適切に行動する必要があると思っております。

また、被災文化財の修復・復旧に関しましては、国、都道府県、また民間からの様々な支援を積極的に活用しながら、地域とともに進めていく必要があるというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（金元 正生君） 豊岡議員。

○議員（5番 豊岡 健太君） 私も亘理町職員の説明を聞いて、先ほど課長の答弁にもありましたけれども、被災時には人命が最優先であるというのが当たり前ですが、被災した文化財をどの段階で保護・復旧するのか、そのタイミングが難しく、ジレンマを感じたというふうにおっしゃっていたお話が印象に残っております。視察先の亘理町では、幸いのこと文化財については致命的な被害が少なかったとのことでしたので、その点については不幸中の幸いだったと言えるかもしれません、日出町もいつ被災するか分かりませんので、様々な状況を想定して備えていただきたいと思います。

1項目めは、以上です。

○議長（金元 正生君） すみません。豊岡議員、少しお待ちください。

お諮りします。一般質問の途中ですが、ここでしばらく休憩したいと思います。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（金元 正生君） 異議なしと認めます。したがって、休憩いたします。午後1時10分より再開します。

午後0時04分休憩

午後1時10分再開

○議長（金元 正生君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。豊岡議員。

○議員（5番 豊岡 健太君） それでは、大項目2番の産婦人科誘致についてお聞きします。

前町長が1期目、2期目、両方とも公約に掲げていましたが、残念ながら実現には至っておりません。これまで複数の議員が一般質問で取り上げてきましたが、9月に町長が変わりましたので、ここで改めて伺いたいと思います。

平成19年に産婦人科が閉院して以降、町内には産婦人科がない状態が続いております。今年の3月に公表した、令和5年度日出町総合計画の進捗状況等に関するアンケート結果報告書の子育て支援に関する自由意見に寄せられた意見においても、産婦人科誘致を望む声が多く寄せられていました。

安部町長や担当課も、分娩可能な産婦人科の必要性は認識されていると私は確信をしていますが、見解と今後の方針について伺います。

まず①の質問ですが、日出町において、直近10年間の平均出生数をお聞かせください。

○議長（金元 正生君） 満石加寿美子育て支援課長。

○子育て支援課長（満石加寿美君） 御質問にお答えいたします。

直近10年間、平成26年から令和5年までの平均出生数は215人です。この10年間を見てみると、平成26年から平成30年までの間の年間出生数は、230人前後で推移しておりますが、令和元年以降は100人を超えてはいますが、令和4年は163人と200人を下回っています。

以上です。

○議長（金元 正生君） 豊岡議員。

○議員（5番 豊岡 健太君） すみません、200人を下回った年ですが、何年度とおっしゃいましたか。すみません。

○議長（金元 正生君） 満石課長。

○子育て支援課長（満石加寿美君） 令和4年です。

○議長（金元 正生君） 豊岡議員。

○議員（5番 豊岡 健太君） 令和4年が200人を下回っているという話でした。それ以外の年は200名から250名弱の赤ちゃんが日出町で生まれているようです。

関連でお聞きしますが、3年前の令和3年12月議会において、先輩の森先生が産婦人科誘致について質問されています。議事録を見ると、令和2年度の日出町の出生数231名のうち、約半数が別府市の産婦人科で生まれています。次いで4分の1に当たる58名が杵築市、あとは少數ですが大分市、由布市と続いているようです。

先ほど答弁いただいた出生数ですが、それから4年しか経っていませんので、大きな変化はないかもしれませんのが、どこの産婦人科で出産をされているのか、最近の数字は把握されているで

しようか。

○議長（金元 正生君） 満石課長。

○子育て支援課長（満石加寿美君） お答えいたします。

出生場所につきましては、別府市の医療機関が56.1%、杵築市の医療機関が20.8%、大分市内の医療機関が15.1%となっており、この3市で92%を占めております。

以上です。

○議長（金元 正生君） 豊岡議員。

○議員（5番 豊岡 健太君） 別府が増えて杵築が減ったようなイメージ、3年前の状況から変わっているようです。

そこで、②の質問ですが、県内で分娩可能な医療機関がない、日出町もそうですが、ない自治体をお聞かせください。

○議長（金元 正生君） 満石課長。

○子育て支援課長（満石加寿美君） お答えいたします。

分娩医療施設がない自治体は、日出町も含めて8市町村となっております。

以上です。

○議長（金元 正生君） 豊岡議員。

○議員（5番 豊岡 健太君） 日出町以外、具体的に教えてもらっていいですか。

○議長（金元 正生君） 満石課長。

○子育て支援課長（満石加寿美君） 国東市、豊後高田市、竹田市、豊後大野市、津久見市、九重町、姫島村と日出町です。

以上です。

○議長（金元 正生君） 豊岡議員。

○議員（5番 豊岡 健太君） 県下18市町村のうち8市町村ですから、約半数の自治体で分娩可能な医療機関がない状態が続いているということです。

私が議員になって初めての議会であります、6年前の平成30年の6月議会において、先輩の熊谷先生が、産婦人科誘致に関して一般質問されています。当時は、大分県下で分娩可能な医療施設が33施設だったようですけれども、減っているのは間違いないと思いますが、現在はどのくらいの数字か分かるでしょうか。

○議長（金元 正生君） 満石課長。

○子育て支援課長（満石加寿美君） お答えいたします。

分娩可能な産科医療施設は23か所です。これに加えて、分娩可能な助産所が2か所あります。

以上になります。

○議長（金元 正生君） 豊岡議員。

○議員（5番 豊岡 健太君） 6年前から8か所ですかね、減っているような状況だと思います。

同じく、熊谷先生の質問の答弁で、平成24年に1施設が閉院、やめてから、平成29年の11月時点では、新たな施設は開設されていないというふうに議事録に載っていましたが、それ以降はどうでしょうか。教えてください。

○議長（金元 正生君） 満石課長。

○子育て支援課長（満石加寿美君） お答えいたします。

それ以降開業した医療施設は、県内3医療機関となっております。

○議長（金元 正生君） 豊岡議員。

○議員（5番 豊岡 健太君） 3施設ということでした。

それを踏まえて、今回の私の一般質問で一番聞きたい項目の③の質問ですが、安部町長は産婦人科誘致に関して、どのようなお考えをお持ちなのか、その思いをお聞かせください。

○議長（金元 正生君） 町長。

○町長（安部 徹也君） 御質問にお答えいたします。

この産婦人科の誘致というのは、莫大な補助金がかかるというふうになっております。そこで、その補助金を負担してまで誘致したほうがいいのか、また、近隣市には、この日出町から20分以内で通院できる産婦人科もございますので、今、県のほうでは、その市町村独自というよりは広域という考え方で考えておりますので、そういった考え方で、病院というハード面よりも、通院補助などのソフト面を検討したほうがいいのか。もちろん、豊岡議員がおっしゃったように、日出町に産婦人科があったほうがいいというお声も承知しておりますので、今後は、費用対効果等を含めて、子育て支援策との優先順位、こういったものを考慮しながら、慎重に担当課と検討してまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（金元 正生君） 豊岡議員。

○議員（5番 豊岡 健太君） 予想では、もう少し前向きな答弁が返ってくるのかなと思っていたが、優先順位が低いわけではないが、これから検討していくというようなニュアンスだったというふうに思います。

今、町長がおっしゃったように、日出町のように、分娩可能な産婦人科がない全国の自治体では、様々な誘致策として、補助金等を用意しております。例を挙げれば切りがありませんが、比較的多いのかなと感じたのが、産婦人科の開設に直接必要な経費の2分の1を補助、上限は5千万円というところが一番多かったのかなという印象です。それ以外に、和歌山県、紀の川市のように、上限1億円というような自治体もあるようです。担当課は御存じだと思いますが、大分県

内では、これから出産を予定している妊産婦が安心して出産を迎えるよう、健診及び出産の移動費用や出産直前の宿泊費用を助成している自治体が、県内6つあるようです。竹田市や国東市、また安部町長地元出身の産婦人科の先生がいらっしゃる佐伯市も助成を行っています。ただ、この助成金は、今町長がおっしゃったように、自宅から最寄りの医療機関が遠い、20キロを超える場合が対象で、つまり面積が広い自治体が行っている支援事業のようですので、日出町にはちょっとそぐわないのかなというふうに私も感じています。

そこで伺いますけれども、こういった補助金に関して、日出町の考え方、今後の方針をお聞かせください。

○議長（金元 正生君） 古屋秀一郎政策企画課長。

○政策企画課長（古屋秀一郎君） それでは御質問にお答えいたします。

第5次日出町総合計画後期基本計画の中でも、子供を産み育てやすい環境づくりを目指す姿として掲げております。産科・小児科医療体制の確保は、大変重要な課題であると認識をしております。

また、先ほど町長の答弁にもございましたが、町民アンケートによる産婦人科医院の誘致を求める期待の声があること、また、市町村によっては産婦人科に特化した誘致への補助金など、優遇策を創設していることも承知してございます。

町内に産婦人科医院または診療科等があることが望ましいと考えておりますが、産婦人科医院の新規開設のための補助となりますと、先ほど議員がおっしゃっていたとおり、他の自治体の事例を見ますと、かなりの高額となりますので、慎重な判断が必要になってくると考えております。

妊産婦・健診等の支援策なども含めて、妊婦さんが安心して出産を迎えるよう、今後も医療体制の環境整備、調査研究を努めてまいりたいと思います。

以上でございます。

○議長（金元 正生君） 豊岡議員。

○議員（5番 豊岡 健太君） ハードルが高いのは、皆さん承知のとおりだというふうに思っています。

少し長くなりますけども、2つ、実際に産婦人科誘致に成功した事例を御紹介したいというふうに思います。1つは千葉県香取市です。香取市は千葉県の北東部にあり、茨城県と接しております。人口は約6万5千人で、合計特殊出生率は2021年には0.97と著しく低い水準で、出生数は約250人前後のようです。産婦人科がない状態が続いていたので、産婦人科を公募型プロポーザルで募集をしました。支援策として、市役所のすぐそばの市有地、市の土地ですね、市有地約2千平米の市有地を30年間無償貸与、固定資産税総当額を10年間交付、設備にかかる経費の5分の1以内で最大5千万円、地盤対策費用として最大1千万円を用意したところ、あ

る医療法人から申込があり、まだ完成には至っておりませんが、産婦人科と小児科を開設予定で、常勤医師2名、非常勤医師6名から8名体制、総従業員数30名体制で、令和7年度末に開院予定で、約20年ぶりに待望の産婦人科が開設されるということでした。ちなみに総額で15億円かかるらしいです。小児科が併設されますので、そういう部分も乗ってきてているのだと思います。

香取市は、産婦人科誘致のプロジェクトチームを作り、大学病院をはじめとする医療機関に根気強く継続的にアプローチをした結果、念願の開院のめどが立ったそうです。

もう一つは和歌山県の有田市です。面積は日出町の半分、人口は約2万5千人、出生数は150人前後ですが、隣接する3つの町にも産婦人科はないため、1市3町が協力して産婦人科を誘致しました。今年4月から施行された医師の働き方改革によって、時間外労働時間が制限され、それまであった分娩施設の継続には5人の医師が必要となることが分かり、1人の医師を確保するだけでも困難なのに、さらに4人の医師を確保するのは現実的ではなかったそうです。

そこで、働き方改革の対象とならない事業主となる開業医による民間クリニックの開院での対応を模索、有田市と地方創生に取り組む民間企業の積水ハウスグループが連携し、産婦人科医院を整備・開設するプロジェクトが発足し、課題を一つ一つ乗り越えていきました。初期投資と運営資金を支援する補助金が必要なため、有田市の市長はすぐに近隣の3町に連絡を取り、年間1億5千万円を1市3町で出し合って補助をしており、今年4月に開院、4月2日には最初の赤ちゃんが生まれたそうです。

産婦人科誘致はハードルが高いとよく言われますが、事例のように要はトップの強い意思が何より重要だと思いますし、実際に実現できている自治体もあります。

町長にお聞きしますが、日出町を選んでもらうためにはどうすればよいかなんですが、提案として、香取市の事例のように、町有地を無償貸与したり、補助金を準備して、極力産婦人科の初期投資がかさまないように支援策を打ち出してはどうかと思っております。極端に言えば、町営クリニックを開設し、そこに医師に来てもらうということもあり得るのかというふうに思いますが、そこはもう少し調査・勉強しないといけないのではないかと考えています。

もう一つは、町内にある病院内に、町が補助をして産婦人科を開設して、そこに産婦人科医に来てもらうということもあり得るのかと考えています。もちろん、それについては病院側の都合や考えがありますので、それを確認する必要はありますが、町長、いかがでしょうか。

○議長（金元 正生君） 町長。

○町長（安部 徹也君） 御質問にお答えいたします。

今ほど豊岡議員がおっしゃったように、ただ単にこの病院をつくって、そこで医師に働いてもらうという場合だけでなく、既存のそういう病院の中にそういうような産婦人科というのを設けて、ほかの市町で開業されているそういうお医者様に来てもらうという形もありだというふう

に思いますので、今後は引き続きいろんなパターンを研究しながら、しっかりとまた、日出町の中で、そういった子供が生まれて、育っていくような環境を整えていきたいというふうに考えております。今後ともしっかりとまた、そこら辺調査していきたいと思っているところでございます。

以上でございます。

○議長（金元 正生君） 豊岡議員。

○議員（5番 豊岡 健太君） 先ほどに比べたら、随分前向きな答弁をいただいて本当にありがとうございます。今後、支援策を打ち出してくれるというふうに信じていますが、支援策は当然必要ですけれども、それ以上に大事なのは、香取市のように、大学や医師会とのパイプづくりといった人間関係、信頼関係の構築であって、補助金を用意して、町の状態では恐らくいくら待つても来ないと思います。安部町長なら、そういったパイプづくりができると思いますし、私もできる限り協力したいというふうに思いますが、いかがでしょうか。

○議長（金元 正生君） 町長。

○町長（安部 徹也君） 御質問にお答えいたします。

心強いお言葉ありがとうございます。議会、執行部、一緒になってしっかりとまた、この問題については対応していきたいというふうに思いますので、何とぞよろしくお願ひいたします。

以上でございます。

○議長（金元 正生君） 豊岡議員。

○議員（5番 豊岡 健太君） 繰り返しになりますけれども、パイプづくりが重要ですので、日出町を選んでもらえるような、熱意と信頼関係づくりを、ぜひ構築していっていただきたいなというふうに思います。

最後に、⑤の質問ですが、産婦人科誘致の課題はどのように考えているか、お聞かせください。

○議長（金元 正生君） 古屋課長。

○政策企画課長（古屋秀一郎君） それでは、御質問にお答えいたします。

議員から先ほど、他の自治体の詳細な例を御紹介いただき、大変参考になります。ありがとうございます。

まず、産婦人科誘致の課題につきましては、出生数が減っていること、それから分娩可能な医療機関等が減っている現状の中、分娩につきましては24時間、365日の労働環境が必要になることですとか、訴訟のリスクといったようなものが高くなることから、産婦人科医等の医師の確保が非常に難しいということが挙げられると思います。

併せまして、産科を開設するには、施設名や機器や入院するための病床など、多額の費用がかかってまいります。また、助産師や看護師の確保も必要になってくると伺っております。自治体

からの補助金があっても、医院全体の運営面から考えますと、課題はかなり多いのかなと考えております。

また、大分県では、第8次大分県医療計画の中で、別府医療センターを中心とした東部医療圏域など3つの圏域を設定して、周産期医療体制の整備を進めていることから、町単独での産婦人科誘致はかなり厳しいのかなと思っております。

来年は、第5次総合計画の策定の見直しの改定の時期になっておりますので、産婦人科の誘致の課題につきましては、町長とまた議会等々と相談しながら、どういうふうに盛り込んでいくのか考えたいと思います。

以上でございます。

○議長（金元 正生君） 豊岡議員。

○議員（5番 豊岡 健太君） 先ほどの町長の答弁に比べて、大分こう後ろ向きに私は感じました。

今おっしゃった課題は、もう何年間同じことを言っているのかなというぐらい、いわゆる分かっている課題であって、難しいからできないみたいなふうに、私は聞こえるんですね。実際に、もちろんお金がかかることではあるんですけども、成功した事例を参考にしながら、繰り返しになりますけれども、パイプ作り、医師との、病院側との人間関係の構築と、あと熱意ですね。これが本当に一番大事だと思うんですよ。その後はやっぱりお金だと思うんですけども、香取市的一般質問における執行部の答弁によりますと、産婦人科が月に25件程度、年間300件程度の分娩があれば経営していくというふうな答弁がありました。有田市のように、1自治体だけで年間150人ほどの出生数でも、周辺自治体から出産に来ますので、日出町でも採算は取れるんじゃないかなというふうに思っています。もちろん香取市の事例のように、医院の規模によっては多額の金額がかかるようですから、産婦人科開設にかかる経費は調査が必要だなというふうに思います。

最後になりますが、前町長、さらにはその前の工藤町長時代にも成し得なかった産婦人科誘致ですが、安部町長の強い意志と実行力、行動力があれば、私は決して実現不可能ではないというふうに思っています。多くの議員も同じ気持ちだと思いますので、実現に向けてぜひ協力させていただきたいと思いますし、努力は惜しまないつもりです。トントン拍子に進む話ではないのは承知しておりますが、また今後も進捗状況をお聞きしますので、ぜひ真剣に取り組んでいただくことを切にお願いするのと同時に、また次回聞くときには一歩でも前進していることを期待しまして、私の一般質問を終わります。

.....

○議長（金元 正生君） 1番、多田利浩議員。多田議員。

○議員（1番 多田 利浩君） 1番、多田利浩です。一般質問の通告に従って一般質問を行います。

まず1番目、通学路の安全確保についてです。

今年5月に、真那井地区で、その後、日出地区の東仁王で、猿の目撃情報が相次ぎました。最近では、日出幼稚園前、的山荘の前と伺っておりますが、散歩中の女性がイノシシに襲われて転倒し、重傷を負っています。これらのことから、保護者から不安の声が上がっています。

日出地区内、若宮から西八日市、そして酒井病院のところと堀交差点、このエリアは、令和3年にゾーン30に指定されました。それに先立ち、日出若宮八幡神社の横に、平成30年にハンプが設置されています。このハンプは、日出地区区長会からの要望で設置されました。

このような工夫がされたものの、抜け道として利用する車両の多くは、制限速度が守れていません。これについても、保護者から不安の声が聞かれます。通学路の安全確保についての見解をお聞きします。

まず、児童生徒を守るための鳥獣被害防止対策についてお聞かせください。

○議長（金元 正生君） 竹内由佳学校教育課長。

○学校教育課長（竹内 由佳君） お答えいたします。

園児・児童生徒等の通学路や、その近辺に野生動物が出没したなどの情報が最近続いております。そのような情報がある場合、該当校区の学校を優先し、その後、全幼稚園及び全小中学校に対し、可能な限り迅速に情報提供するとともに、子供に対する安全確保に関する指導や、保護者へのメール等での情報提供、教職員による通学路の見守り等を行うようにしています。日出町農林水産課等関係各課や、杵築日出警察署等も連携し、見回りやパトロール等の対策もお願いしているところでございます。

野生動物の出没は予測ができず、目撃された個体もあちこちへ移動するため、幼稚園及び各学校では日頃から子供たち自身が身を守る方法を身につけておく必要がございます。具体的には、野生動物に近づかない、静かにその場を離れるなど、危険回避のための行動を子供たちの発達段階に合わせて丁寧に指導するとともに、このような掲示物等、これ、農林水産課さんがつくってくださっているものですが、こういったものも使いながら、いつも確認できるようにしているところです。

出没情報の迅速な共有にも十分な留意を行いながら、いざというときの安全な行動について繰り返し指導していくことを引き続き大切にしていきたいと考えています。

以上でございます。

○議長（金元 正生君） 多田議員。

○議員（1番 多田 利浩君） 今のところ、生徒、学生への被害というのでは出でないでしよう

か。

○議長（金元 正生君） 竹内課長。

○学校教育課長（竹内 由佳君） 今のところ、最近そういった被害は報告を受けておりません。
ございません。

○議長（金元 正生君） 多田議員。

○議員（1番 多田 利浩君） 鳥獣被害防止については、岩尾議員から同様の質問が出ていましたので、通学路の安全確保について、ゾーン30についてお聞きしたいのですが、冒頭で申し上げましたが、日出町では、令和3年に日出地区中心部がゾーン30に設定されました。ゾーン30は、2011年、平成23年に生活道路や周辺地域に指定を始めた区域規制です。最高速度の規制標識がない生活道路では、皆さん御存じのように最高速度は法定速度である60キロになっています。ゾーン30に指定された区域は、最高速度が30キロですということが明確になりました。ゾーン30の整備箇所は、2023年度末で全国で4,358か所もあるそうです。警察庁は生活道路対策として、1972年、昭和47年からスクールゾーンやシルバーゾーンを設けてきました。スクールゾーンというのは皆さん御記憶にあろうかと思います。標識を設置してゾーンの認知を図ってきました。しかし、結果としては、生活道路の安全確保につながらなかつたと聞いています。

そこで、歩行者などの通行が優先され、通過交通が限りなく抑制されるべく、地域を面積に関わりなくゾーン30として設定することが始まりました。ゾーン30の必須条件は最高速度が30キロということです。ほかの整備の選択として、ゾーン30の設定のハードルを下げています。選択的な対策としては、ゾーンの入り口にシンボルマークの設置、これは日出町にも設置されています。路面標示もあります。車両通行、一方通行などの交通規制の実施、ハンプや狭窄などの物理的な設備の設置、路側帯の整備拡張、あとは車道の中央線の抹消などがあります。

この中で実施が高かったのは路面標示のみでこれは8割だそうです。ですが、ほかの対策は20%未満で、なかなか実施されていないのが現状です。

そこでゾーン30をさらに効果的にしようと、ゾーン30プラスが考えされました。生活道路における人優先の安全安心な通行空間の整備のさらなる推進を図るため、最高速度30キロの区域規制、ゾーン30とハンプなどの物理的デバイスの適切な組み合わせによって交通安全の向上をさらに図ろうとする区域をゾーン30プラスとして設定しました。道路管理者と警察が連携しながら進めるんだそうです。このゾーン30プラスは、2024年3月末、今年の3月末で全国で192箇所が指定されています。大分県では大分市の戸次地区、それと別府市の青山地区の2箇所が指定されています。

ゾーン30プラスでは最高速度が30キロ、物理的デバイスの設置、歩行者の飛び出しなどに

一層の注意喚起、抜け道としての利用はなるべく御遠慮くださいという注意喚起などで安全確保を目指しています。

日出町でもゾーン30をゾーン30プラスに格上げすることができないでしょうか。いかがでしよう。

○議長（金元 正生君） 豊田博都市建設課長。

○都市建設課長（豊田 博君） それではお答えいたします。

議員が言われたとおり、令和3年3月から、日出小学校周辺エリアとした杵築日出警察署管内初となるゾーン30という交通規制がされております。この目的としては、議員さんが言われましたが、ゾーン内における車の危険な通り抜けやスピードの抑制を図るものでございます。このエリアの中には、もう既に物理的なデバイスとしてハンプ、一部でございますが、路側帯のカラー舗装が既にされております。しかしながら制限速度を守れない車が見受けられるということで、ゾーン30をゾーン30プラスにという御指摘でございますが、既存のゾーンをゾーン30プラスにする、しないにかかわらず、杵築日出警察署、地域住民と協議を行い、物理的デバイスの増設と対策を検討していきたいと考えております。

今後、さらなる改善が必要となって、歩行者の通行が優先され、通行・交通が可能な限り抑制されるという、ゾーン30プラスの基本的な考え方に対する地域住民の同意が得られれば、警察と協議を行い、ゾーン30プラスの検討をしていきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（金元 正生君） 多田議員。

○議員（1番 多田 利浩君） 今、おっしゃられたように、特に若宮、蓮華寺から岩波竹材店の間というのは、中央線、センターラインが引けないほど狭い道になっています。そこを朝、日出中学校の生徒が自転車で通学してくる道路になっているんですが、特に朝30キロで走っている車、ほとんどなくて、不安を多く感じています。ですから、早急に、今課長がおっしゃったようなデバイス、あともちろん地域の住民との意見交換も必要かと思うんですが、それを早急になさっていただければと思います。本当、これ早急な対応が必要だと思うんですね。でないと、その事故が起こってから、子供が事故に巻き込まれてからでは、これは遅くなってしまうので、ぜひ早急な対応をお願いいたします。

早急な対応について、課長、何かお考えありましたらお願いいいたします。

○議長（金元 正生君） 豊田課長。

○都市建設課長（豊田 博君） 平成28年、地区の方からの要望がありました。そのときにも説明会をして、初めてハンプを作るということで説明会をいたしました。そういうことで、また地域住民の意見を聞きながら、また関係区長とも意見を聞きながら検討はしてまいりたいと思い

ます。

以上でございます。

○議長（金元 正生君） 多田議員。

○議員（1番 多田 利浩君） 若宮八幡神社の横にハンプを作ったときに、当時の町長は、ハンプを作りましたと、これで効果があるんだということをおっしゃっていたのですが、当時、私は議員ではないですけれども、警察の方とお話をしたときに、ハンプは1か所じゃ効果が出ないんですよ。例えば、150メートルとか200メートルの間に数か所、3か所、4か所ということで連続してハンプを設けることで、初めて効果が出るんですということを聞いております。ですから、道路によってデバイスの作り方というのも変わってくるかと思いますが、これは本当、早急に対応をお願いしたいと思います。

これは、もうゾーン30なんで、日出地区に関してのことなんですけれども、町内全域の通学路の安全確保についてお聞きしたいのですが、例えば、最近聞いたところでは、豊岡小学校の付近はやっぱり道路が狭い。道路が狭いことから電柱の位置を変更した。電柱の位置を変更すれば、徒歩で通学する生徒の安全確保につながるだろうということが、今度は反対に、電柱の位置が少しずれたことで、車の速度が上がってしまったと。これでは全然安全確保にならない。町内至るところにそういうところが見られると思うのですが、町内全域の通学路の安全確保について、生徒学生だけのためではなく、居住者、特に高齢者や観光客のためでもあると思っております。これについてお考えをお聞かせいただきたいのですが、教育長、いかがでしょうか。

○議長（金元 正生君） 教育長、恒川英志君。

○教育長（恒川 英志君） それではお答えいたします。

通学路の安全につきましては、御案内のとおり、各学校とも周辺の道路は非常に狭うございます。ただ通学路の安全点検につきましては、毎年定期的に各学校より情報を入れながら、各関係機関と協議しながら改善できるところは早期に改善しているところでございます。

ただ、道路の拡幅につきましては、なかなかすぐにできるという容易なものではございませんので、非常にこちらとしても悩ましいところがあります。

また通学路につきましては、交通安全そのものもあるのですけど、先ほど出ております鳥獣対策、それから不審者対応等々、様々な要因が関わりますので、その全般を通して指導しているところでございます。

ただ、なかなかハード面での整備が思うように進んでいないのが現状ではございますが、それゆえに各地域の方々にも協力を得ながら、交通安全対策の指導、交通指導を協力いただいているところで、おかげでこれまで大きな事故も起こっていない、非常にありがたく思っております。またどうやら子供たちの歩行態度、それから自転車のマナーにも問題があるという御指摘をしば

しばいだきますので、それに関しましても各学校で指導をしているところでございます。

通学路に関しては、以上です。

○議長（金元 正生君） 多田議員。

○議員（1番 多田 利浩君） これ、日出中学校の自転車通学生なんですけども、せっかくヘルメットをしてるのに、あごひもかかってないとか、あごひも、とっても緩いというようなことがときどき見受けられます。その際には、あごひも、ちゃんと締めてくださいとか、少し緩いんじゃないかなということを生徒に言うんですけども、ああ、おいちやん、分かったということで、やってくれるんですけども、そういうところの指導も続けて行っていただきたいと思います。

町長、同じような、同じことの質問なんんですけど、通学路の安全確保について、町長のお考えをお聞かせください。

○議長（金元 正生君） 町長、安部徹也君。

○町長（安部 徹也君） 御質問にお答えいたします。

私自身も町内、車を運転することは多々あるのですけれども、非常に危ないと感じる道路、豊岡にも、日出にも、川崎にも、もう各地区にやはりありますので、ここはしっかりと、またその危ない所は点検をして、ハード面もそうなんですけれども、やはり警察と連携をとって、そういうスピード違反の取り締まり等、ソフト面もしっかりとまた対応して、日出町の中では安全運転というような、そういう意識づけが大事だと思っています。今後もそういう危険な運転については、しっかりとまた対応していきたいというふうに思っているところでございます。

以上です。

○議長（金元 正生君） 多田議員。

○議員（1番 多田 利浩君） 今、町長は速度取締まりということをおっしゃっていたのですけれども、今、日出地区の町内で私が見たのは、日出郵便局のところで速度取締まりをやっていて、シルバー人材のところに速度違反の車をこちらに入ってくださいということをやっているのを見かけたことがあるのですが、もちろんその回数を増やしていただくことも効果だと思うのですけれども、ほかの自治体で見かけるのは、速度取締まり重点エリアと書いてある看板ですね。これもよく見かけますので、それを看板を設置するだけでもスピード抑止になるのではないかと思っています。これからよろしくお願いいいたします。

2番目の質問です。地域公共交通についてです。

運転免許の自主返納者、高齢者、障がい者など交通弱者の普段の生活を支える目的で、地域公共交通は運行されています。日出町では昨年10月よりデマンド交通を実施しています。1年経過しましたが、当初の目標より利用者は伸び悩んでいるようです。町長は来年3月までに計画を見直すとおっしゃっています。日出町は73キロ平米と、面積が広く、地域公共交通の構築には

工夫が必要だと思われます。あと4か月足らずですけれども、地域公共交通の見直しについて見解をお伺いしたいと思います。

まずは、デマンド交通の利用者、目標値と現状値について教えてください。

○議長（金元 正生君） 藤本周司まちづくり推進課長。

○まちづくり推進課長（藤本 周司君） 令和5年10月から令和6年10月末、計13か月の実績といたしましては、登録者数は793人、利用延べ人数は8,662人で、1日平均にしますと33人でございます。昨年度策定いたしました日出町地域公共交通計画では、コミュニティバスを含めた数値で、令和8年度に年間1万4千人、1日にして約57人を目標としております。

以上でございます。

○議長（金元 正生君） 多田議員。

○議員（1番 多田 利浩君） デマンド交通、よく町内で見かけるんですけれども、残念なことに、たくさん乗っているような印象を受けません。1日平均は33人ということで、やっぱり少ないなという印象を、これはもう受けざるを得ないという感じがいたします。デマンド交通、運行1回当たりのコストはいかがでしょうか。1つは利用者1人当たりの町の負担分、もう1つは町民1人当たりの町の負担分、いかがでしょうか。

○議長（金元 正生君） 藤本課長。

○まちづくり推進課長（藤本 周司君） 利用者1人当たりの町の負担分は約2,583円、町民1人当たりの町負担分は約803円となります。

以上でございます。

○議長（金元 正生君） 多田議員。

○議員（1番 多田 利浩君） 今の課長の答えからすると、非常に費用対効果が悪いように感じます。ですから、何かこういい方法がないかなというのは思うんですが、デマンド交通を運行するために地域のタクシー会社の運転士さんが運行に携わっています。デマンド交通の運行に当たって、1人乗務員さんが減るわけですから、もちろんその分の負担金ということでフォローはできているかと思うんですけども、やはりタクシー会社の経営者にお話を伺うと、どうしても収入が減ってしまっているということが現状として耳に伝わってきています。

デマンド交通とタクシーの会社が共存する策というのは何かございますでしょうか。

○議長（金元 正生君） 藤本課長。

○まちづくり推進課長（藤本 周司君） タクシー事業者からデマンド交通が始まってから利用者の数が減ったという声が上がっておりまます。それに伴うタクシー事業の具体的な収入の減少額等の検証作業を行いつつ、デマンド交通とタクシー事業との共存、ひいては持続可能な交通体系の構築に向けて改善を図っていくことが必要だというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（金元 正生君） 多田議員。

○議員（1番 多田 利浩君） 共存を図っていく、交通体系の構築を考えていくということなんですが、ぜひ来年3月までその構築に向けて町長と担当課で御検討いただきたいと思います。

今回10月末から11月1日まで3日間、2泊3日で岐阜県と愛知県に総務産業常任委員会で視察研修に伺ったんですが、その際に公共交通についてもお伺いして、その際に運転免許の自主返納者や高齢者、障がい者に対しての公共交通の利用に利用の際に、特典があることを伺ったんですけども、日出町ではこの特典というのはいかがでしょう。

○議長（金元 正生君） 藤本課長。

○まちづくり推進課長（藤本 周司君） 日出町高齢者運転免許自主返納支援といたしまして、返納時点で70歳以上の方を対象に総務課危機管理室が支援を行っております。5項目あります。

1万円相当の日出町コミュニティバスの回数乗車券、あと1万円相当の民間バス路線の回数乗車券、1万円相当の民間路線バスが利用できるICカード、「n i m o c a」カードになります。

1万円相当の町内を運行する民間タクシーの臨時乗車券、36回分のデマンド型地域公共交通サービスの利用回数券、以上5項目がございます。

以上でございます。

○議長（金元 正生君） 多田議員。

○議員（1番 多田 利浩君） 課長、今までに何人が返納者の特典を利用されましたでしょうか。

○議長（金元 正生君） 藤本課長。

○まちづくり推進課長（藤本 周司君） 令和5年から現在まで運転免許証返納者数は136人いらっしゃいます。そのうちデマンド交通を言いますと利用回数券は10件になります。なお、タクシーチケットを希望される方が88件という非常に最も多くなっております。

以上でございます。

○議長（金元 正生君） 多田議員。

○議員（1番 多田 利浩君） 今の課長の答弁からも、タクシーチケットの希望者が多いということが分かりました。地域公共交通のことを考えると、このタクシーチケットの配付というのが一番有効的ではないかと私は思っています。タクシーチケットの配付を検討できないでしょうか。課長、いかがでしょう。

○議長（金元 正生君） 藤本課長。

○まちづくり推進課長（藤本 周司君） タクシーチケットの配付を含めまして現在、案を作成しているところでございます。所管の委員会でその内容について説明をさせていただきたいというふうに考えております。その場合に懸念される点といたしましては、経費の問題と乗務員の不足、

高齢化がございます。また委員会で御意見をいただきて、タクシー事業者とも相談しながら、新たな交通体系を構築していきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（金元 正生君） 多田議員。

○議員（1番 多田 利浩君） また、では所管の委員会での説明をお聞きしたいと思います。

先ほど申しましたように、視察研修に行きました。その中でみよし市、みよし市っていうのはあのトヨタ自動車の豊田市のすぐ隣接するところなんですけども、ここは人口が6万人、6万2千人ほど、面積は32キロ平米、ですから日出町の半分よりちょっと小さいぐらいですね。人口密度が1,929人、やっぱり町が小さい分、人口が多い。人口が多くて人口密度が上がってきます。日出町は2万7,860人、面積は73キロ平米、人口密は372人です。自治体の人口や自治体の面積、地形などで地域交通の取組は変わってくると思います。

みよし市の地域交通のさんさんバスの利用実績では、昨年の1日の平均利用者は955人、非常に多いんですね。1便当たりの利用者は10人だそうです。さんさんバスのバス停に事前に予約をすれば、タクシーが待機して乗り継ぐことができる乗り継ぎタクシーのサービスもありました。バスでカバーができないエリアを補う役目になっています。ただ、さんさんバスの場合、交通弱者と言われる市民だけではなく、通勤や通学の通学での利用も多いことから、利用者が多いと思われます。

さんさんバス乗り継ぎタクシーは、65歳以上は無料化されています。これもすばらしいサービスだと思いました。ですが、愛知県っていうのは自動車乗用車の保有台数が422万台で全国1位なんです。大分県の同様の数ですね、自動車の乗用車の保有台数は70万台で全国33位です。やっぱり車が多いところで、65歳以上で無料化になっても以前から利用しないんだ、利用してないっていう方が7割近くいるそうです。これはアンケートで知らせてくださいました。乗用車を利用しての移動が多いのだと思われます。

日出町での公共交通、地域公共交通の今後を考えるに当たって、公共交通の利用を望む町民がどれぐらいいるかを考慮して、これについては高齢化、変化も考えていかなければいけないと思うんですが、それを考慮して地域公共交通の在り方の提案をお願いしたいと思います。

私は、日出町での現在の利用者数からタクシーチケットでの対応が一番適しているのではないかと思います。

町長、このことについてまたお考えがあろうかと思うんですが、お考えをお聞かせいただけますか。

○議長（金元 正生君） 町長。

○町長（安部 徹也君） 御質問にお答えいたします。

この公共交通の問題については、この9月末で大分交通がなくなつてから、非常に多くの方から不便になったというお声も頂戴しております。ただ来年の3月末までは、そのデマンド交通及びコミュニティバスの契約もございますので、現状のままで運行はいたすところでございますが、今あの関係課と新たな公共交通、どうすればより多くの方、できればもう誰一人取り残さない、そういうような公共交通網を整備するというのが理想ではございますが、そういう意味で今現状、例えば日本版ライドシェアであつたりとか公共ライドシェア、またマース、いろんなその公共交通、最先端の事例がございますので研究をして、またいろんな市町村で、私自身も東京に研修視察に行った際には、徳島県の神山町では全町民を対象にタクシー補助をすると。そういう話もございましたので、そういう、最新事例、勉強しながら、しっかりとまた来年の4月に向けて公共交通を整備していきたいというふうに考えているところでございます。

以上でございます。

○議長（金元 正生君） 多田議員。

○議員（1番 多田 利浩君） 今の町長のお話にありましたように、誰一人取り残さない公共交通地域、地域公共交通というのを期待しております。

別府市は今月中旬からライドシェアの実証実験が始まると聞いております。あの日出と別府では、また特に飲食店、夜の飲食店の数なども違いますし、それを利用される方も違つてくるんで、それを丸々日出に当てはめるっていうのは難しいかと思いますが、ただ、タクシー会社もその運転者の減少などいろんな問題を抱えていると聞いておりますので、今後そういうことを加味した上で、地域公共交通の在り方をまた御提案いただければと思います。

これで、一般質問終わります。ありがとうございました。

散会の宣告

○議長（金元 正生君） お諮りします。本日の一般質問はこれで終了し、明日10時から一般質問を続けたいと思います。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（金元 正生君） 異議なしと認めます。したがつて、本日はこれにて散会し、明日10時から一般質問を続けることに決定いたしました。

本日はこれで散会いたします。御苦労さまでした。

午後2時05分散会
